



IS 350C / IS 250C

取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ ミラーヒーター

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い

キー	22
----------	----

1-2. ドア・トランクの開閉の しかた、ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	26
ワイヤレスリモコン	37
ドア	39
トランク	43

1-3. シート、ハンドル、 ミラーの調整のしかた

フロントシート	47
ドライビングポジション メモリー	51
シートポジションメモリー	55
ヘッドレスト	57
シートベルト	59
ハンドル	65
インナーミラー	67
ドアミラー	68

1-4. サイドガラス・メタルトップの 開け方、閉め方

パワーウインドウ	71
電動開閉式メタルトップ	75

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	84
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	88
オートアラーム	89

1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	94
SRS エアバッグ	95
子供専用シート	103
チャイルドシートの取り付け ...	111

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	118
エンジン（イグニッション ）スイッチ	127
オートマチックトランス ミッション	131
方向指示レバー	137
パーキングブレーキ	138
ホーン（警音器）	139

2-2. メーターの見方

計器類	140
表示灯／警告灯	145
マルチインフォメーション ディスプレイ	148

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	152
フォグライトスイッチ	154
ワイパー＆ウォッシャー	156
フロントワイパー デアイサー	159

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	160
レーダークルーズ コントロール	164
運転を補助する装置	175
ヒルスタートアシスト コントロール	180
プリクラッシュセーフティ システム	182

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	188
寒冷時の運転	190

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	194
・インテリアライト	196
・パーソナルライト	196

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	197
・グローブボックス	198
・コンソールボックス	199
・カップホルダー	200
・小物入れ	202

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	203
バニティミラー	204
時計	205
サテライトスイッチ	206
灰皿	210
シガレットライター	211
アクセサリソケット	212
シートヒーター	213
シートヒーター＆ ベンチレーター	215
フロアマット	217
トランク内装備	219

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	226
内装の手入れ	230
タイヤについて	233

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	241
ガレージジャッキ	244
エンジンルームカバー	247
電球（バルブ）の交換	249
ヒューズの点検、交換	257
電子キーの電池交換	268
ウォッシュ液の補給	270

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	272
非常点滅灯	273
発炎筒	274
けん引について	276

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	280
警告メッセージが表示された ときは	286
パンクしたときは （スベアタイヤ搭載車）	297
パンクしたときは （パンク修理キット付き車）	306
パンクしたときは （ランフラットタイヤ）	318
エンジンがかからないときは ...	320
シフトレバーが シフトできないときは	322
キーを無くしたときは	323
電子キーが正常に 働かないときは	324
バッテリーがあがったときは ...	328
オーバーヒートしたときは	331
スタックしたときは	333
メタルトップが 閉まらないときは	334
車両を緊急停止するには	344

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ （指定燃料、オイル量など）	346
---------------------------------	-----

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	353
--------------------------	-----

6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	355
------------------	-----

さくいん

略語一覧	358
五十音順さくいん.....	359
症状別さくいん	367

1

2

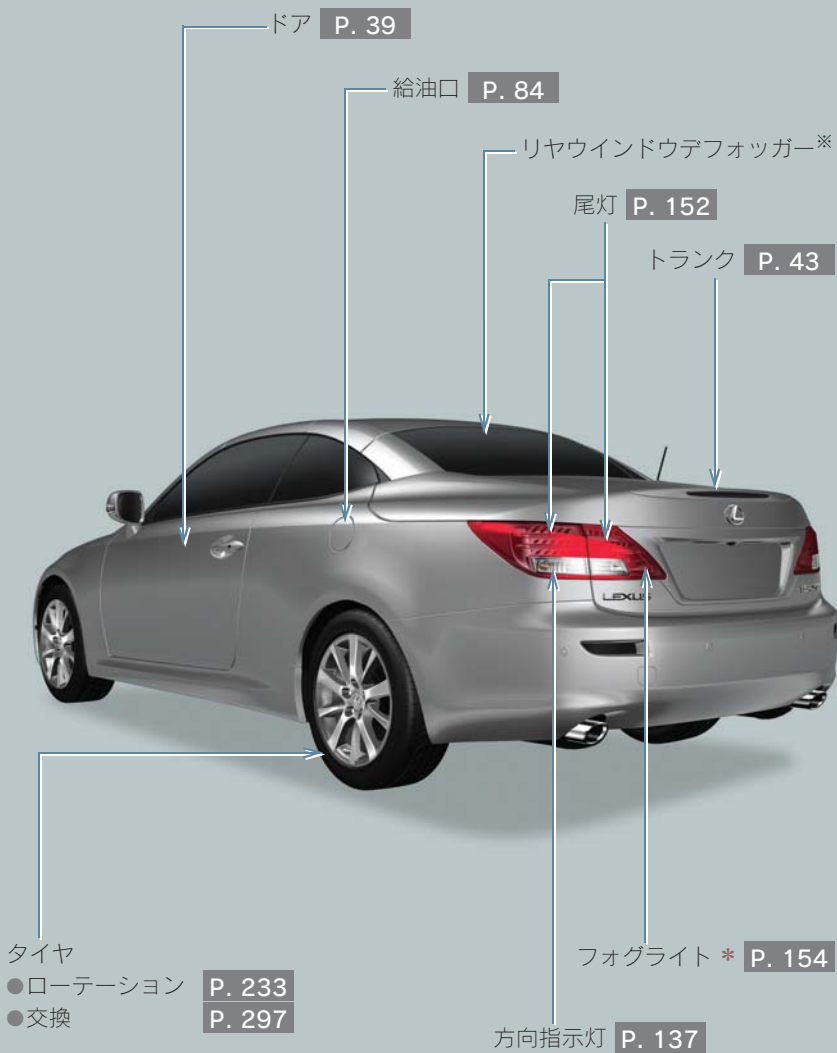
3

4

5

6





* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

イラスト目次

室内

運転席 SRS エアバッグ P. 95

SRS ニーエアバッグ P. 95

助手席 SRS エアバッグ
P. 95

A

フロアマット P. 217

アクセサリソケット P. 212

ヘッドレスト P. 57

シートベルト
P. 59



フロントシート P. 47

カップホルダー P. 200

コンソールボックス P. 199

カップホルダー P. 200

灰皿 * P. 210

AUX 端子※

USB 端子※

SRS サイドエアバッグ
P. 95

A

インナーミラー P. 67

インテリアライト P. 196

ヘルプネットスイッチパネル※



パーソナルライト P. 196

サンバイザー P. 203

バニティミラー P. 204

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

B

ドライビングポジションメモリースイッチ * P. 51
シートポジションメモリースイッチ * P. 55

ドアミラースイッチ P. 68

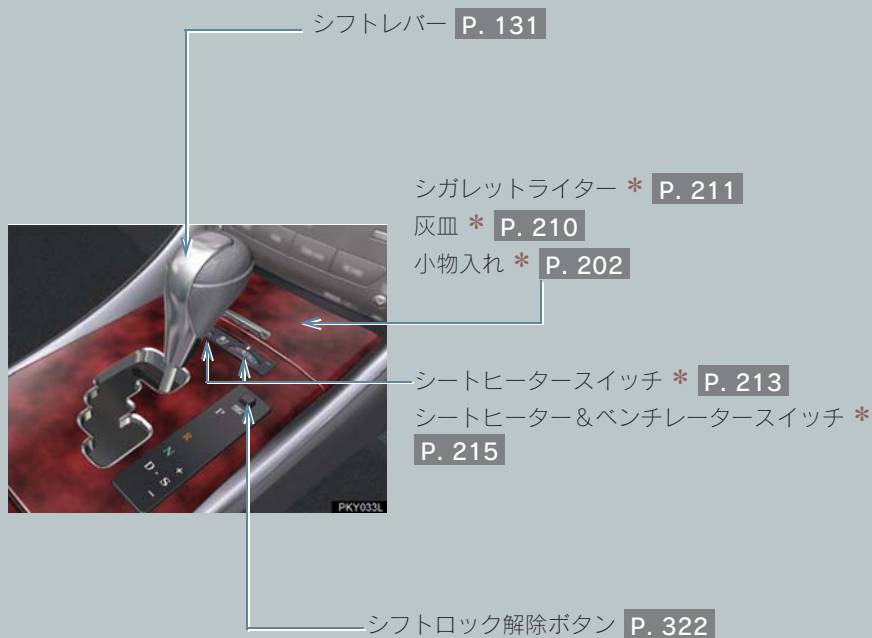


ウインドウロックスイッチ P. 71

ドアロックスイッチ P. 39

パワーウインドウスイッチ P. 71

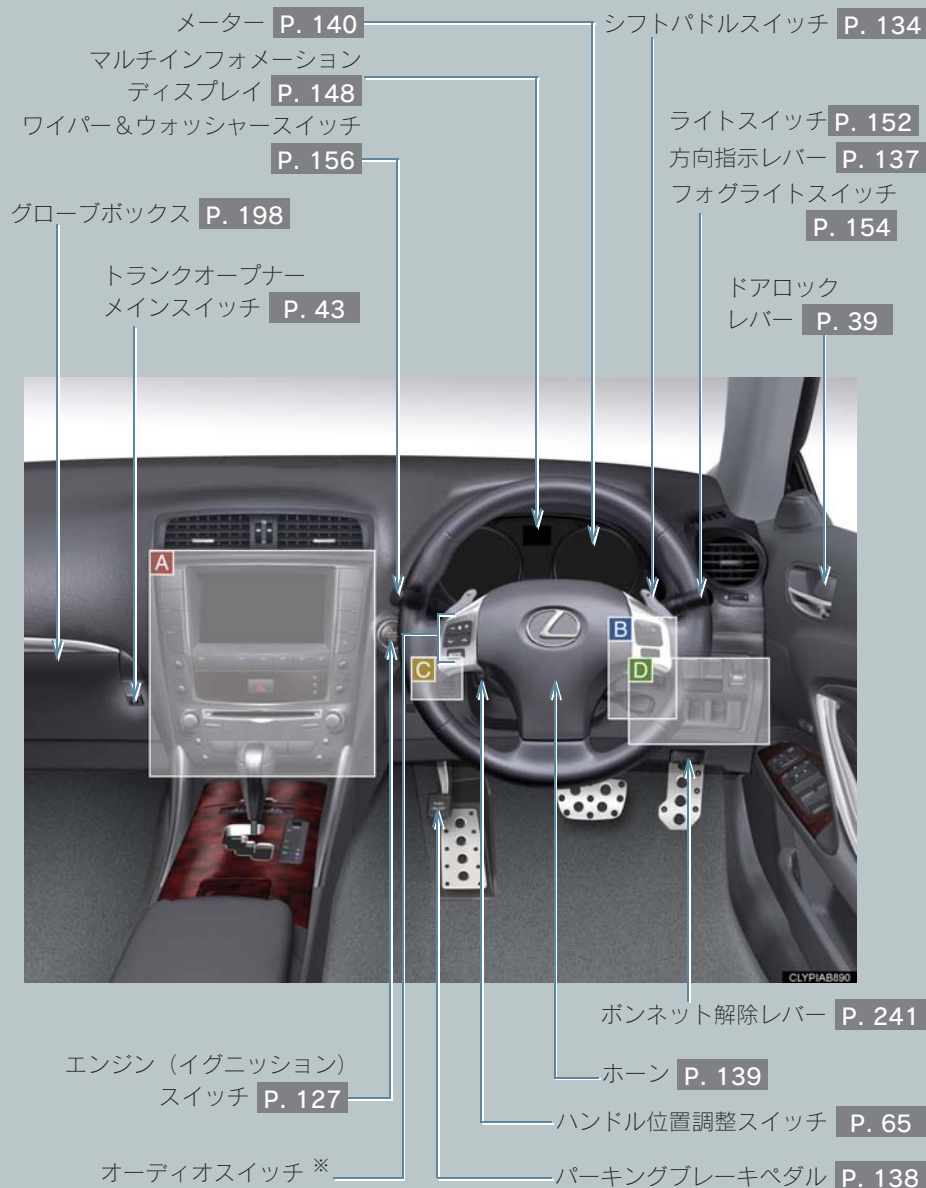
C



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

イラスト目次

インストルメントパネル



A

▶ タイプ A

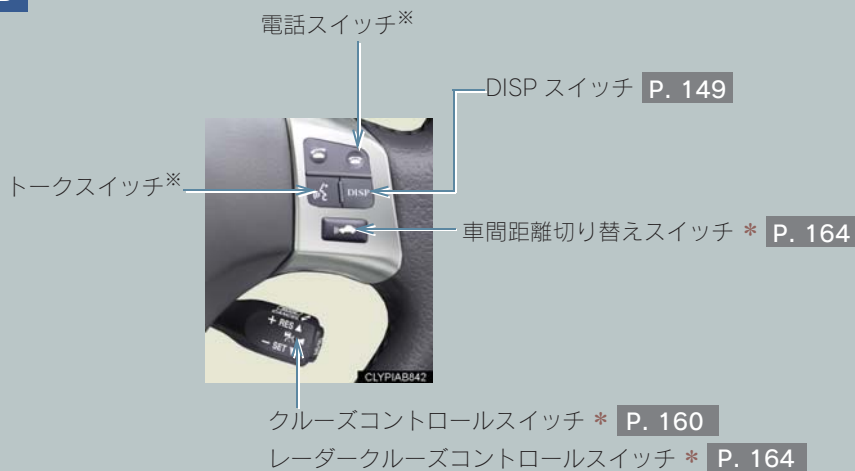


▶ タイプ B



※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

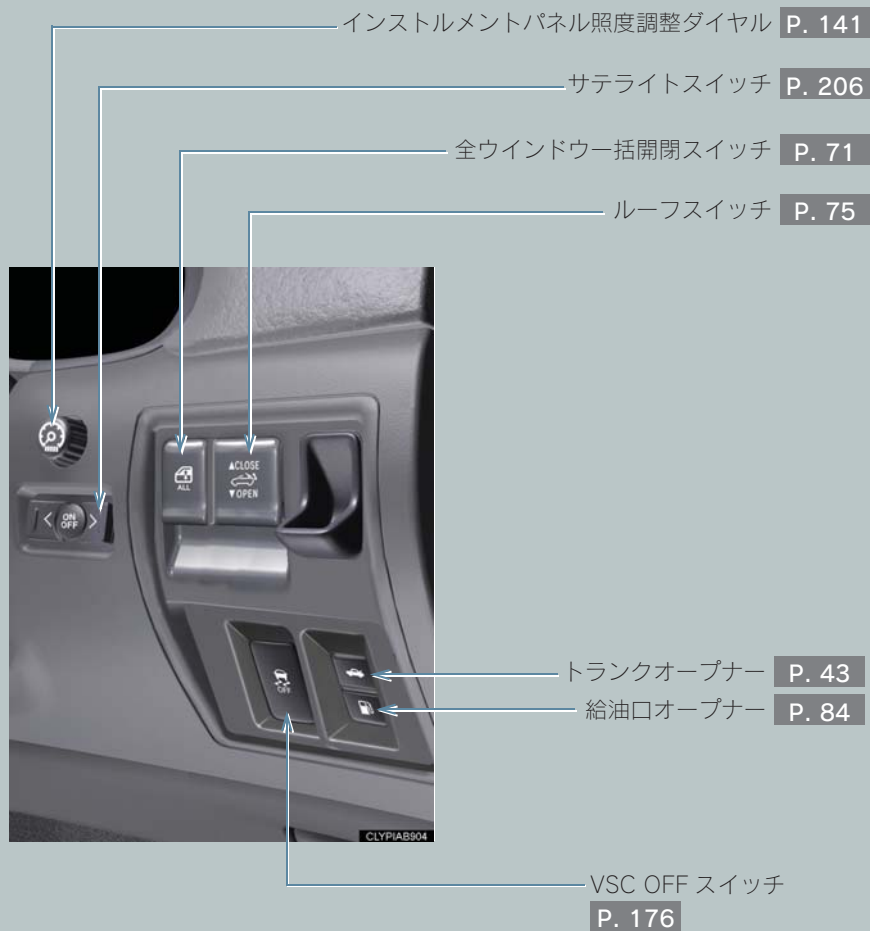
B



C



D



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備
※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはS R Sエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、サイドガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 111)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

車両の制御データ・操作データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- ・ エンジンの回転数
- ・ 車速
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ トランスミッションのシフトポジション
- ・ 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- ・ 運転席のシート位置
- ・ エアバッグ作動に関する情報
- ・ エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意がある場合
- ・ 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取扱い

キー.....	22
---------	----

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	26
ワイヤレスリモコン	37
ドア.....	39
トランク.....	43

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート	47
ドライビングポジション メモリー	51
シートポジションメモリー....	55
ヘッドレスト	57
シートベルト	59
ハンドル.....	65
インナーミラー	67
ドアミラー	68

1-4. サイドガラス・メタルトップの開け方、閉め方

パワーウィンドウ	71
電動開閉式メタルトップ	75

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方.....	84
--------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	88
オートアラーム.....	89

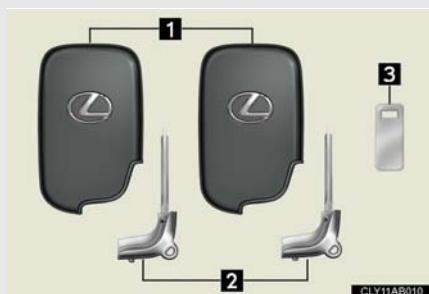
1-7. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.....	94
SRS エアバッグ	95
子供専用シート.....	103
チャイルドシートの 取り付け	111

1-1. キーの取扱い

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 26)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 37)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー

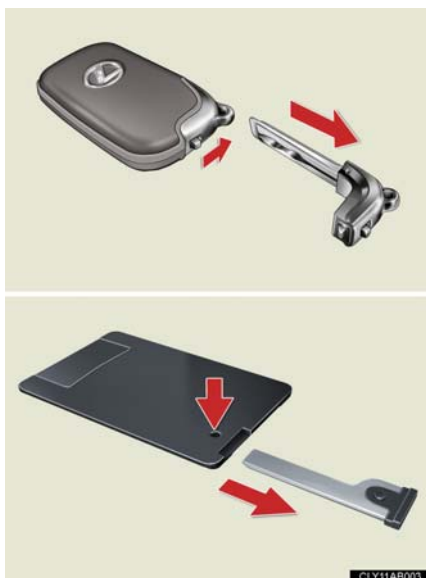


1 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 26)

2 メカニカルキー

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後は元にもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 324)



知識

■カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。(→P. 43, 198)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 分解しない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

 注意

■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が錆びた場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

■ 電子キー取り扱いの注意

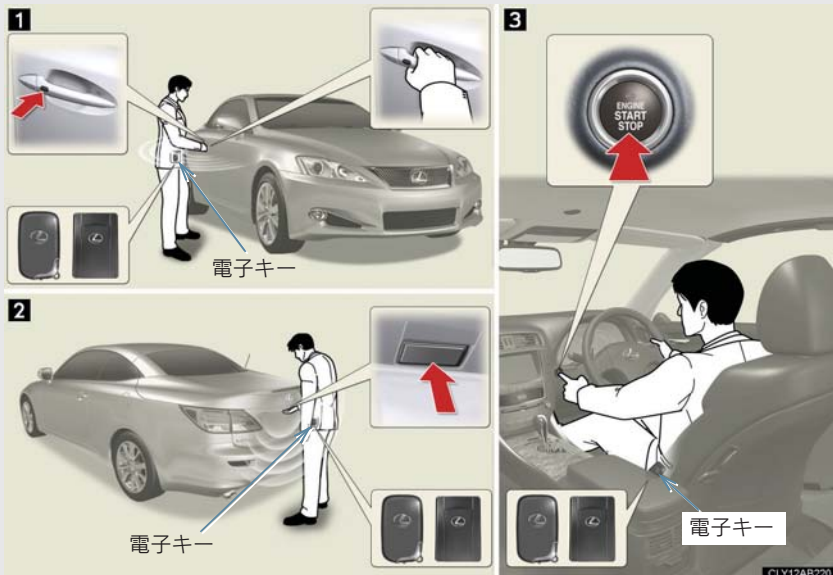
電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。

（必ず運転者が携帯してください。）



1 ドアの施錠・解錠 （→P. 27）

2 トランクの解錠 （→P. 27）

3 エンジンの始動 （→P. 127）

ドアの解錠・施錠



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

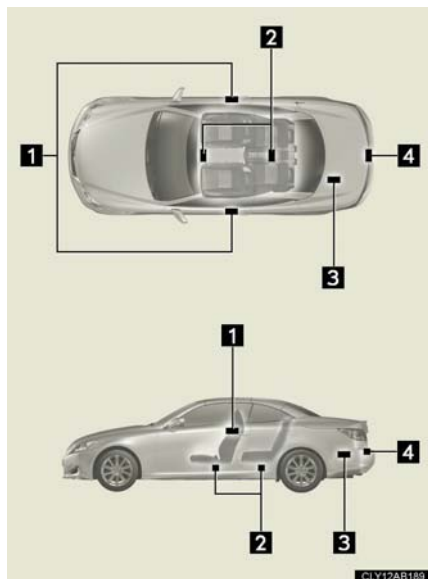
トランクの解錠



スイッチを押して解錠する

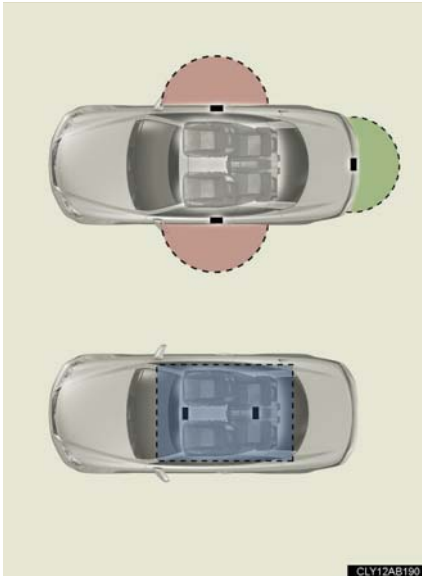
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



● : ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルの外側約 70 cm 以内のエリアで電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

● : トランクの解錠時

トランクオープナースイッチの外側約 70 cm 以内のエリアで電子キーを携帯している場合に作動します。

● : エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。(対処方法: → P. 324)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したたばこの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
 - ・ ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき
- メタルトップの開閉直後

■ 解錠ドアの切替機能

スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。(操作中のオートアラーム誤作動防止) (→P. 89)

手順 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに、 と同時に、
 、  のいずれかを約 5 秒間押し続ける。

操作をおこなうごとに以下のように設定が切り替わります。(続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手を離した後 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。)

マルチインフォメーション ディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピッピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピッピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	

オートアラームの誤作動防止のため、設定切りかえ後はいったん電子キーで解錠し、ドアを開閉してください。( を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。(→P. 89)

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 1ヶ月以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレス機能で施錠・解錠する (→P. 37)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 324)

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 294)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 268)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ T V
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。メタルトップが開いていても、電子キーを車内に置いたままでは、施錠／解錠など車外からの操作ができません。
- 車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
- 作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
 - ・エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもサイドガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を装着していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。)
- 車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度元の位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 286)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせず、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーをPにしてください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

メタルトップが開いているときなどにドアを開けずにキーを車外に持ち出した場合、これらの警告が正しく機能しない場合があります。

■スマートエントリー & スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 324
- エンジン始動：→P. 326

■電池が切れたときは

→P. 268

■販売店で設定可能な機能

作動合図の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 353）



警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは雷克萨斯販売店にお問い合わせください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 全ドア解錠
- 3 サイドガラスが開く（長押し）*
- 4 トランク解錠（長押し）

*: レクサス販売店ででの設定が必要です。

知識

■ 作動の合図

ドア : ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク : ブザーで知らせます。

サイドガラス : ブザーで知らせます。

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 89)

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 電池の消耗について

→P. 32

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 34

■ 電池が切れたときは

→P. 268

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

■ 販売店で設定可能な機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 353)

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 27

■ ワイヤレス機能

→P. 37

■ ドアロックスイッチ



1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側から施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	イグニッション ON モードのときにシフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする(その後20秒以内に手順2をおこなう。)



シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押し続けます。

設定をおこなう機能によってシフトレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順をおこないます。

機能	シフトレバーの位置	スイッチの位置
シフト連動オートロック	P	
シフト連動オートアンロック		
車速感応オートロック	N	
運転席ドア連動オートアンロック		

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠された後、解錠されます。



■ ドア連動サイドガラス開閉機能

ドアの開閉に連動して、サイドガラスが少し開閉します。.

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ 販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 353)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

● シートベルトを必ず使用する

● すべてのドアを施錠する

● すべてのドアを確実に閉める

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには



トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

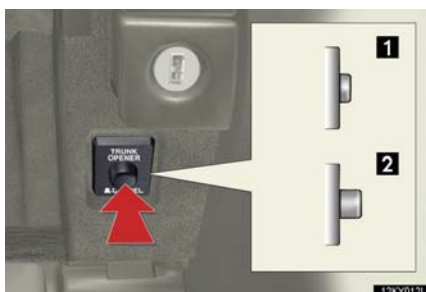
▶ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 27

▶ ワイヤレス機能

→P. 37

トランクオープナーを使用できなくするには



グローブボックス内のトランクオープナーメインスイッチをOFFにする

1 ON

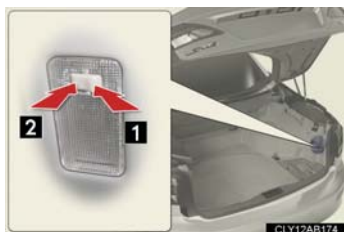
2 OFF

ワイヤレス機能、スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■ トランクライト

スイッチを ON に設定しておくともトランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。



1 ON

2 OFF

■ トランクリップ



トランクを引き下げるときにお使いください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴り施錠されません。(→ P. 34)

■ メタルトップが作動しているときは

トランクが開きません。メタルトップの作動が完全に終了してからトランクを操作してください。

■ トランクオープナーメインスイッチを OFF したあとに駐車場などでキーを預けるときは

→ P. 24

**警告****■ 走行中の警告**

- 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまをのせているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ トランクの使用にあたって

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



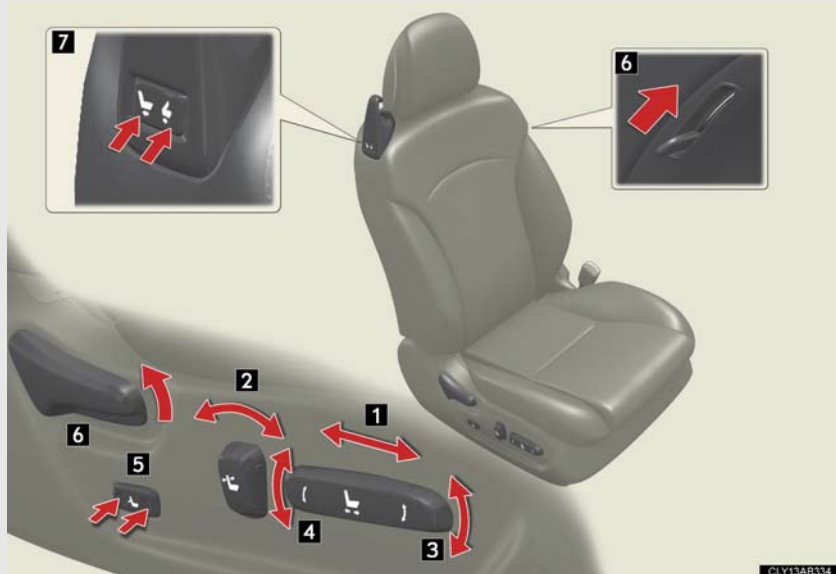
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

1

運転する前に

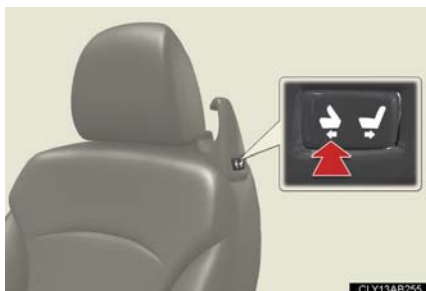


- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整
- 4 シート全体の上下調整
- 5 腰部硬さ調整（ランバーサポート）
- 6 シートバックの前倒し
- 7 リヤ席への乗降（ワンタッチパワーウォークインシート）

ワンタッチパワーウォークインシート

スイッチでフロント席を前後に操作し、リヤ席への乗り降りをスムーズにします。

■ 乗るとき / 降りるとき



スイッチの前方側をブザーが鳴るまで押すと、フロント席が前へ移動します。

安全のため、最前端の少し手前で作動が停止します。最前端まで移動するには、停止後に再度スイッチを押し続けてください。

■ フロントシートを元にもどすとき（オートリターン）



スイッチの後方側をブザーが鳴るまで押すと、フロント席が後ろへ移動します。*

フロント席を後ろ寄りで使用しているときは、安全のため途中でいったん停止します。元の位置までもどすには、再度スイッチを押してください。

その後スイッチを再度押し続けることで、元の位置よりさらに後方へ移動させることができます。

*: スイッチを押している間のみ移動するように、設定を変更することができます。(→P. 206)

 知識**■ ワンタッチパワーウォークインシートについて**

- 前方への操作後、復帰させる前に、シート調整スイッチやドライビングポジションメモリースwitchを押したときは、復帰作動しません。ワンタッチパワーウォークインシートスイッチ以外のスイッチでシートを動かしてください。
- 次のときはワンタッチパワーウォークインシートが作動しません。
 - ・ 動かそうとするシートに人や荷物が乗っていたり、シートベルトを装着しているときに操作したとき
 - ・ 車が動いているとき
- 次のときは、作動が途中で停止します。
 - ・ 前方または後方側のスイッチを再度押したとき
 - ・ シート調整スイッチやシートポジションメモリースwitchを押したとき
 - ・ シートに人や荷物が乗ったとき（前方作動のみ）
 - ・ 車が動き出したとき
 - ・ シートベルトを装着したとき（前方作動のみ）
- オートリターンがオンのときは、ワンタッチパワーウォークインシート作動中にブザーが断続的に鳴ります。

■ フルリクライニングシートを起こすときは

シートバックをフルリクライニングさせているときは、前倒しレバーでシートを起こさないでください。フルリクライニングのときに前倒しにすると、次に起こしたときにシートバックがロックしないことがあります。ロックしなくなった場合は、いったんリクライニング調整スイッチを前方向へ数秒間操作し、リクライニングのメモリー位置を変更してから、再度シートバックを起こしてください。



警告

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■ シートバックを前倒しから戻すときは

シートバックは必ず手で直接起こしてください。

もしリクライニング調整スイッチでシートバックを起こした場合、正しくロックせず、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

戻したあとは、シートを前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

■ 走行中は

絶対にシートバック前倒しレバーを操作しないでください。

■ ワンタッチパワーウォークインシートについて

● スイッチを操作する前に、周囲の人や物がシートに挟まるおそれがないことを確認してください。シートの作動は途中で自動停止しないため、シートに挟まれた場合、生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。

● 走行中は絶対にスイッチを操作しないでください。

ドライビングポジションメモリー（運転席）*

お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドル、ドアミラーの位置）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 運転席、ハンドル、ドアミラーを好みの位置に調整する。

手順 3



SET ボタンを押した後、3 秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2



1～3のうち呼び出したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

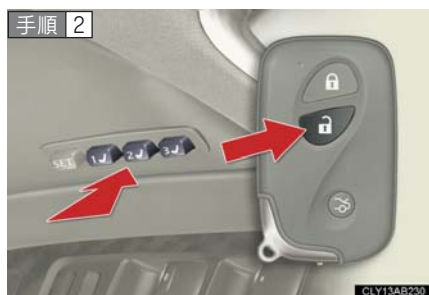
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 運転席ドアを閉め、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、電子キーの  をブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレス機能でドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんドアを開閉してください。（ を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 89）

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 運転席ドアを閉め、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチ（運転席側）の施錠側または解錠側をプザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 運転席ドアを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にする。

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの ボタンをプザーが鳴るまで押す。

ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をプザーが鳴るまで押す。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後でも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、およびその後再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■ バッテリーの接続が断たれたときは

記憶したポジションが消去されるため、再設定が必要となります。



■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員やチャイルドシートに当たったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

シートポジションメモリー（助手席）*

お好みの助手席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

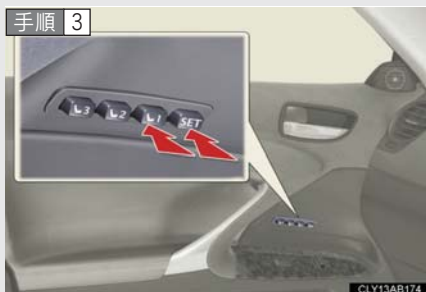
シートポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 助手席を好みの位置に調整する。

手順 3



SET ボタンを押した後、3 秒以内に 1～3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。



1～3 のうち呼び出したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備



知識

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後でも、助手席ドアを開けて 180 秒以内ならポジションの呼び出しができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する

■ バッテリーの接続が断たれたときは

記憶したポジションが消去されるため、再設定が必要となります。



警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員やチャイルドシートに当たったりしないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト

1

運転する前に



上下調整（フロント席）

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



可倒（リヤ席）

レバーを引くと倒れます。戻すときは、直接ヘッドレストを起こします。

後退時など、後方を見やすくするときに倒してください。

知識

■ヘッドレストの取りはずし（フロント席）



解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

⚠ 警告

ヘッドレストの使用時は、以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■フロント席

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■リヤ席

- ヘッドレストを倒したままでシートに座らない
- リヤ席に乗員がいるときにヘッドレストを倒さない
- 倒したヘッドレストに座らない

⚠ 注意

■リヤ席ヘッドレストについて

倒したヘッドレストを過度に押さえつけないでください。破損の原因になります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

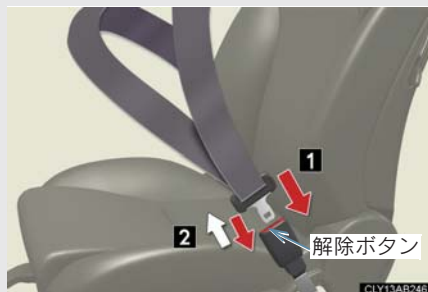
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



- 1 固定
“カチッ”と音がするまで差し込みます。
- 2 解除
解除ボタンを押します。

シートベルトガイド



フロント席のシートベルトを着用するときは、必ずベルトをガイドに通してください。

リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

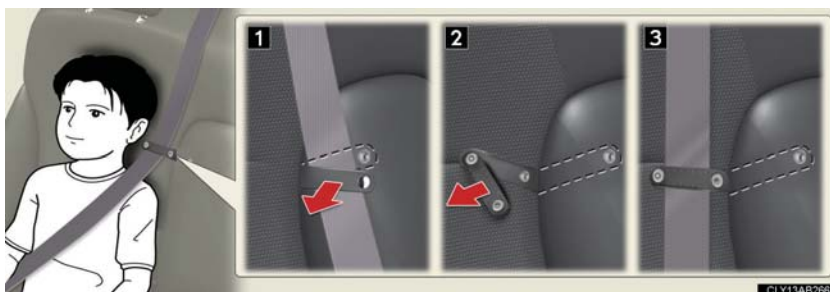
リヤシートベルトホルダー & ガイド

■ リヤシートベルトホルダー



リヤシートベルトを使用しないときはホルダーで固定し、使用するときには必ずホルダーからベルトをはずしてください。

■ リヤシートベルトガイド



肩ベルトが首の近くにかかるときは、ベルトをガイドに通してください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

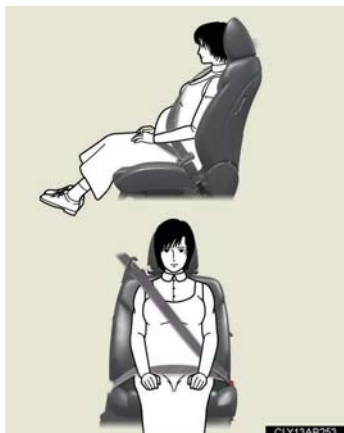
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。
(→P. 182)

 知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性や疾患のある方の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 59)

妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまのシートベルトの使い方

お車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 111)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 59)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。



警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■シートベルトガイドを使用するときは

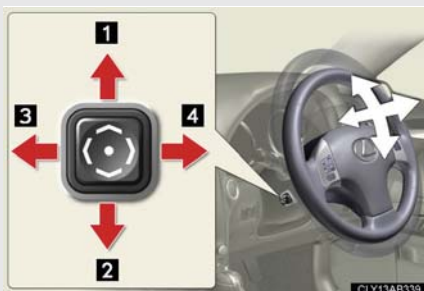
ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたまま使用しないでください。

■リヤシートベルトを使用するときは

必ずホルダーからベルトをはずしてください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



- 1 上がる
- 2 下がる
- 3 前方に動く
- 4 手前に動く

オートアウェイ&オートリターン機構



“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが移動します。

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにすると、元の位置にもどります。



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ 販売店で設定可能な機能

オートアウェイ&オートリターン機構の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 → P. 353)



警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

インナーミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



自動モードのオン／オフ切り替え

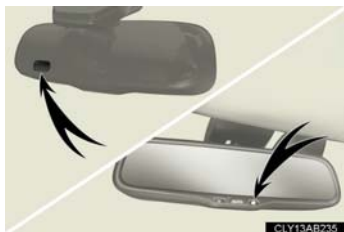
オンのときはインジケーターが点灯します。

“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。



知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。



- 1 スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する。
- 2 ミラーを選ぶ
(L : 左、R : 右)

ドアミラーを格納するときは



ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置に戻ります。

自動格納機能* : サテライトスイッチを使用して、ドアの施錠・解錠と連動させることができます。(→P. 207)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。
(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

- 次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P.227）を行ってください。
 - ・ 鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手でふれたり汚れた布などでふいたとき
 - ・ 洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
 - ・ 地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき
- 次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。
 - ・ 鏡面にシリコン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
 - ・ 鏡面に傷を付けたとき

■ ミラー角度のワンタッチ調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度を登録し、ワンタッチで調整できます。（→P. 51）

■ リバース連動機能（ドライビングポジションメモリー装着車）

後退時にドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R とともに選択していない状態）にしておくと、この機能は作動しません。

 警告

■ **走行しているときは**

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ミラーを格納したまま走らない

必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ **ミラーが動いているときは**

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているときは**

鏡面が熱くなるので触れないでください。やけどするおそれがあります。

 注意

■ **レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

● 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。

親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。

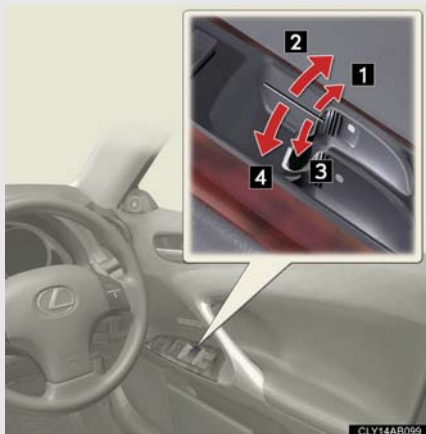
● シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。

● 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。

1-4. サイドガラス・メタルトップの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスとクォーターガラスを開閉できます。

▶ 個別で操作する



- 1 閉める
- 2 自動全閉（フロント席）※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶ 一括で操作する



- 1 閉める
- 2 開ける
- 3 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のサイドガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってサイドガラスを開閉することを防止できます。

知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ドアロック連動サイドガラス開機能

ワイヤレスリモコンでサイドガラスを開けることができます。(→P. 37)

■ クォーターガラス開時のフロントドアガラス連動

クォーターガラスを開けると、同時にフロントドアガラスが少し開きます。クォーターガラスが開いているときは、フロントドアガラスは最後まで閉まりません。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後でも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

■ 挟み込み防止機能（フロント席のみ）

サイドガラスを閉めているときに、サイドガラスに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードの状態、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ メタルトップ半開時のパワーウィンドウ操作

メタルトップが半開（作動が完了していない状態）のときは、パワーウィンドウを操作しても作動しません。

■ 販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコン連動サイドガラス開機能の設定を変更できます。

（カスタマイズ一覧 →P. 353）

警告

■ サイドガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- サイドガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- お子さまには、パワーウィンドウの操作をさせないでください。
サイドガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

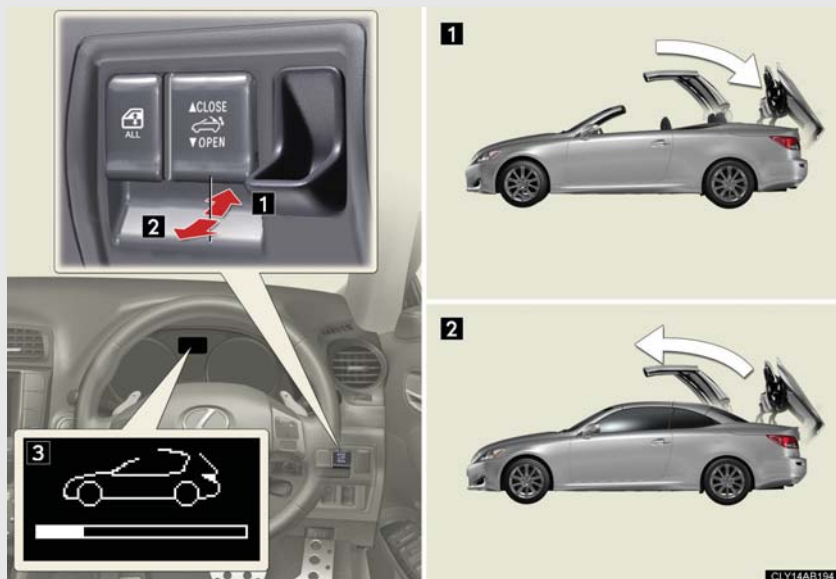
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、サイドガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-4. サイドガラス・メタルトップの開け方、閉め方

電動開閉式メタルトップ

スイッチでメタルトップを開閉できます。



1 メタルトップを開ける

ディスプレイに“完了”が表示されるまで、スイッチを押し続けます。

作動とともにサイドガラスも全開します。

作動が完了するとブザーが鳴ります。

2 メタルトップを閉じる

ディスプレイに“完了”が表示されるまで、スイッチを引き上げ続けます。

作動とともにサイドガラスも全開します。

作動が完了するとブザーが鳴ります。

作動が完了した後もスイッチの操作を続けると、サイドガラスを閉めることができます。

3 メタルトップ状態表示 (→P. 77)

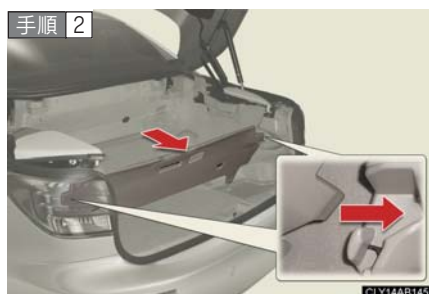
ラゲージカバー

メタルトップを開いたときに、メタルトップを収納するスペースを確保するために使用します。

ラゲージカバーを正しく取り付けすることで、メタルトップを操作できるようになります。



ラゲージカバーのボード部を手前に引き倒し、フックから外します。



ラゲージカバーを引き出し、ボード部の上部を左右のホルダーに差し込みます。

ボード部が、左右のホルダーにしっかりと差し込まれていることを確認してください。



ボード部の下部を、フロアにある左右のホルダーに差し込みます。

ボード部が、フロアにある左右のホルダーにしっかりと差し込まれていることを確認してください。

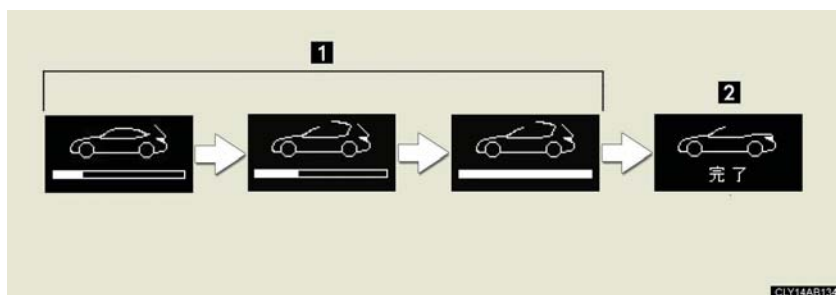
メタルトップ状態表示

メタルトップの作動に関する情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

■ ルーフ作動インジケータ

メタルトップの作動状況を表示します。

▶ 作動を途中で停止させない場合



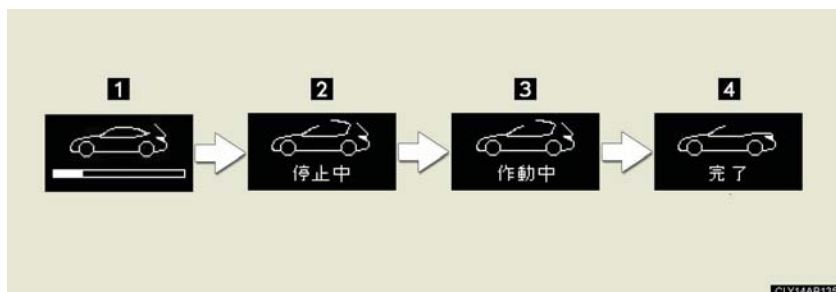
1 作動中

作動にともなって、バーの表示が変化します。

2 作動完了

“完了” と表示されます。

▶ 作動を途中で停止させた場合



1 作動中

作動にともなって、バーの表示が変化します。

2 作動停止

スイッチから指を離したとき、作動条件から外れたとき、または異常があるときに作動が停止します。(→ P. 80)

3 作動再開

再度スイッチを操作することで、作動を再開します。

再作動中は、バーは表示されません。

4 作動完了

“完了”と表示されます。

■ アドバイスまたは警告メッセージの表示

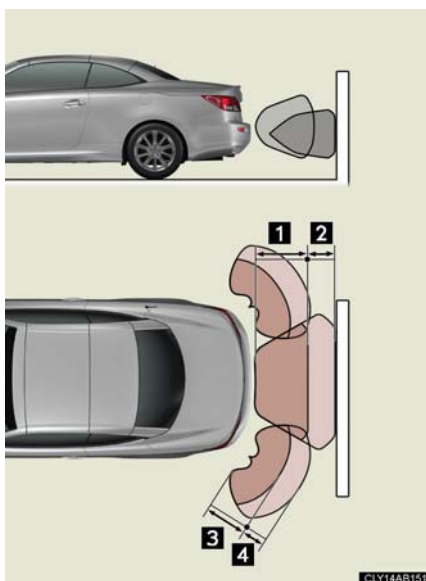
作動条件を満たしていないとき、または異常があるときにスイッチを操作すると、メッセージが表示されます。(→ P. 289)

クリアランスソナー連動制御（クリアランスソナー装着車）

クリアランスソナーを使って車両後方の障害物を検知し、障害物までの距離に応じてメタルトップの作動を制御します。

この制御は、車両後方の安全確認を支援する機能であり、安全を保障するものではありません。必ず周囲の安全を確かめてから操作を行ってください。

■ 検知範囲と制御について



- ❶ 約 35cm 以下
- ❷ 約 45cm から 35cm
- ❸ 約 25cm 以下
- ❹ 約 37.5cm から 25cm

制御を行う範囲は左図の範囲のみです。障害物が近すぎると検知できないことがあります。

- スイッチ操作開始時に、❷ または ❹ の範囲に障害物を検知している場合マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示するとともにブザーが鳴り、注意喚起を行います。

メッセージの表示中もスイッチを操作し続けると、3秒後に通常の作動を行います。

- スイッチ操作開始時に、❶ または ❸ の範囲に障害物を検知している場合マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示するとともにブザーが2回鳴り、メタルトップの作動を行いません。

いったんスイッチから指を離し、2秒以内に再度スイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示するとともにブザーが鳴り、注意喚起を行います。そのままスイッチを操作し続けると、3秒後に通常の作動を行います。

トランクの作動中に**1**または**3**の範囲に障害物を検知した場合は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示するとともにブザーが2回鳴り、安全のためメタルトップの作動を停止します。周囲の安全を確かめてからスイッチを再操作してください。



■メタルトップの作動条件

- 車両が停車状態である
- エンジンがかかっている（“エンジンスタートストップ”スイッチが、イグニッション ON モードになっていれば作動しますが、正しく作動させるために、エンジンがかかっている状態をおすすめします。）
- トランクが閉まっている
- トランクオープナーメインスイッチが ON になっている（→ P. 43）
- ラッゲージカバーが正しくセットされている（→ P. 76）

坂道や段差のあるところでは、正しく作動しないことがあります。

クリアランスソナーが車両後方に障害物を検知していると、作動しないことがあります。

■メタルトップの作動条件を満たしていないときのスイッチの操作について

メタルトップが全閉状態で車両が停車している場合は、作動条件を満たしていないときでも以下のように作動します。

- スイッチを引き上げ続けると、全てのサイドガラスが閉まります。
- スイッチを押し続けると、全てのサイドガラスが開きます。

■クリアランスソナー連動制御について

- クリアランスソナーが ON のときに作動します。(→ P. 206)
- トランクが開ききったあとは、作動しません。
- 障害物を検知している状態でも、スイッチを反対側に操作することで、トランクを閉めることができます。

■クリアランスソナーに汚れまたは異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイにクリアランスソナーの汚れまたは異常の表示が出ているときは、メタルトップの通常の作動ができなくなります。クリアランスソナーを OFF にしてスイッチを操作する、またはスイッチを6秒以上操作し続けることでメタルトップを作動させることができます。この場合、クリアランスソナー連動制御は作動しません。

■メッセージが表示され、メタルトップが動かないときは

メッセージの内容を確認し、対応する対処を行ってからもう一度操作してください。(→ P. 289)

■販売店でできる設定

クリアランスソナー連動機能の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧→ P. 353)

警告

■メタルトップを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●メタルトップを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。万一、体などが挟まれた場合は、ただちに操作を中止してください。



●メタルトップ開閉時は、トランク部が作動するため、周囲に人がいないことを確認してください。

●ヒンジやレール部などに手などを挟まないようにしてください。

●強風時は操作しないでください。

●メタルトップが半開状態で、バッテリーをはずさないでください。

■走行中は

●メタルトップが半開状態のまま走行しないでください。

●シートに立ったり、パッケージトレイに座ったり、身を乗り出さないでください。

■お子様を乗せるときは

お子様にはメタルトップの操作をさせないでください。

メタルトップに挟まれたり巻きこまれたりして重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■メタルトップ開閉時の注意

- 操作するときはルーフ上方の70cm、リアバンパー後方の35cm以内に障害物が無いことを確認してください。
- パッケージトレイの上にはどんなに小さな物でも置かないでください。
- メタルトップに座ったり、荷物を積んだりしないでください。
- 外気温が-20℃以下のときや、サイドガラスが凍結しているときは開閉しないでください。
- メタルトップが濡れているときは開かないでください。内装が傷んだり、汚れやしみの原因になります。
- 開閉するときは、リヤウインドウデフォグガーを OFF にしてください。
- 開閉中にトランクを開けないでください。
- 開閉が完了していない状態で、長時間放置しないでください。
- 短時間の間にくり返し開閉すると、モーターの保護回路が作動し、スイッチの操作ができなくなることがあります。この場合は、いったん“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にし、しばらくしてから再度操作してください。
- ラゲージカバーの上下に物を置かないでください。
- ラゲージカバーを確実に取り付けてください。荷物がはみだしたりすると開閉の妨げとなり、メタルトップが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、メタルトップの開閉を繰り返しておこなわないでください。

1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

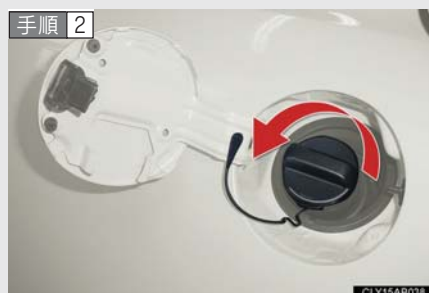
■ 給油する前に

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

■ 給油口の開け方



オープナースイッチを押す



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。

知識

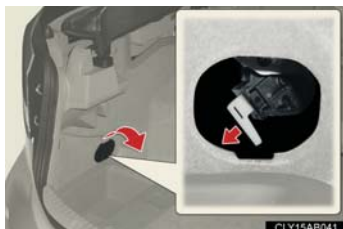
■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン

■ 燃料タンク容量（参考値）

65 L

■ 給油口が車内から開けられないときは



バッテリーがあがったりその他の原因で給油口が開けられないときはレバーを引きます。



警告

■ 給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内に戻ったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属性のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

■ オートアラームを設定するには



メタルトップが開いているときは閉じてください。

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームを解除・作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する。（数秒後に解除、停止します）

侵入センサーの作動について

侵入センサーとは、電波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知した場合、警報するシステムです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

警報については「オートアラーム」を参照してください。

侵入センサーの作動を停止するには

サテライトスイッチで侵入センサーの作動を停止することができます。
(→P. 206)



知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

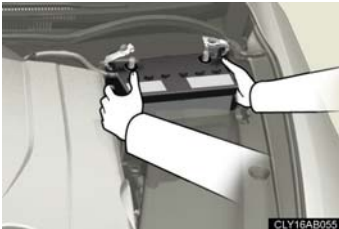
- 車内に人が乗っていないか
- サイドガラスとメタルトップが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。
オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。



- 車内に残った人が、ドア、トランク、ボンネットを開けたとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電、交換をしたとき

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■ 侵入センサーの作動停止について

- メタルトップが全開のときは、侵入センサーによる警報が自動で停止します。
- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサー作動停止状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチを押すか、ワイヤレス機能による解錠操作が行われると作動可能状態に復帰します。

■ 侵入センサーの自動復帰について

再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

■ 侵入センサーの作動について

次のような場合には、侵入センサーが働き、オートアラームが作動することがあります。

- 車内に乗員やペットなどを残して、車両から離れる場合
- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けているなど、動きやすいものが車内にある場合
- サイドガラスが開いている場合
- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき
- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき
- アルミ蒸着された霜除けシートが風などで動いたとき

■ バッテリーをはずすときは

オートアラームを解除してください。

オートアラームを設定したままバッテリーをはずすと、バッテリーを再接続したときにオートアラームが作動します。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドア、トランク、ボンネットの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

■ 販売店で設定可能な機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 353）

**注意****■ オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

1

運転
する
前に

1-7. 安全にお使いいただくために 正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない (→ P. 47)
- 2 シートをペダルが十分に踏みこめるようなシート位置にする (→ P. 47)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする (→ P. 47)
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 65)
- 5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる (→ P. 57)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 59)

⚠ 警告

■ 走行中は

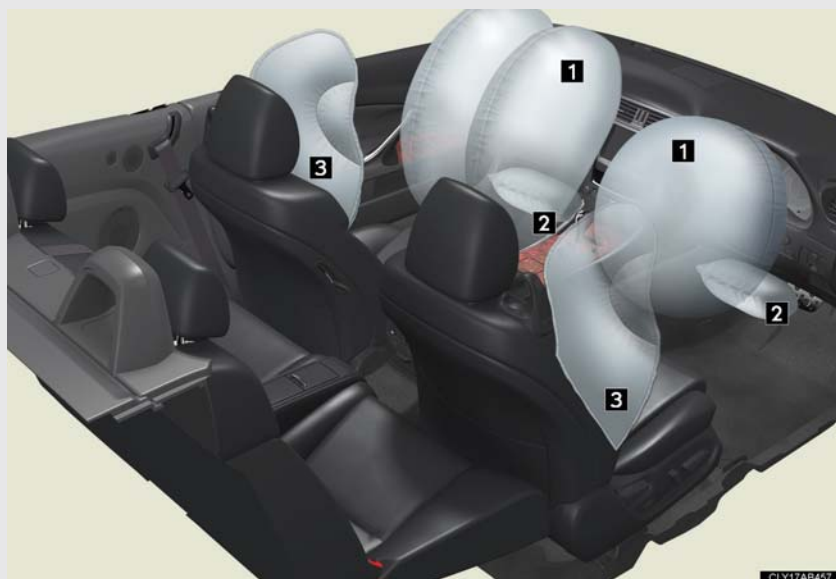
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ

3 頭部・胸部対応サイドエアバッグ
(フロント席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)



知識

■ SRS エアバッグが展開すると

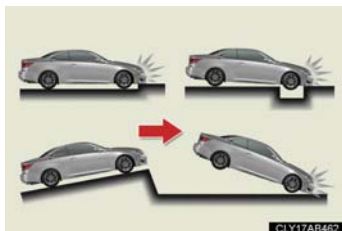
- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席の一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドル、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ）

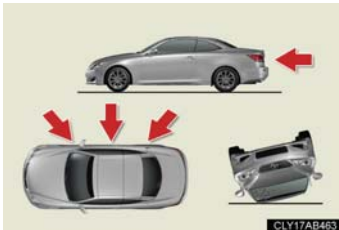
SRS サイドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ フューエルポンプシャットオフシステム

エンスト時および SRS エアバッグ作動時はフューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしてからエンジンを始動します。

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

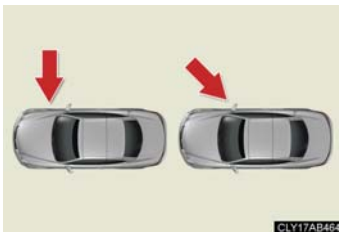
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。



- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分や助手席ダッシュボード、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



警告

■ SRS エアバッグについて



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。

- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

- ドアへ寄りかからない。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

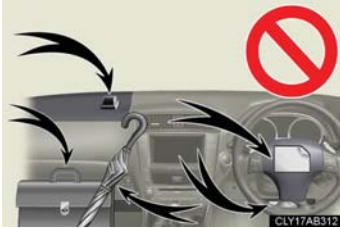
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→ P. 111)



- 助手席でドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

警告

■ SRS エアバッグについて



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドアなどには何も取り付けない。

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリを使用しないでください。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRSエアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやサイドガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。



警告

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により以下の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0+	: 13kg まで
グループⅠ	: 9 ~ 18kg
グループⅡ	: 15 ~ 25kg
グループⅢ	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにもなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

1

運転する前に

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	運転席側	助手席側
0（10kg まで）	×	×	L
0+（13kg まで）	×	×	L
I（9～18kg）	前向き UF	前向き L	前向き L
	うしろ向き ×	うしろ向き ×	うしろ向き ×
II（15～25kg）	UF	×	×
III（22～36kg）	UF	×	×

● 上表に記入する文字の説明

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。

（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

● 子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	レクサス純正ベビーシート	汎用
	レクサス純正チャイルドシート	汎用
0+（13kg まで）	レクサス純正ベビーシート	汎用
	レクサス純正チャイルドシート	汎用
I（9～18kg）	レクサス純正チャイルドシート	汎用
II（15～25kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用
III（25～36kg）	レクサス純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISO-FIX 位置	
			リヤシート	
			運転席側	助手席側
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	×	IL
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	×	IL
	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF	IUF
	A	ISO/F3	IUF	IUF
II (15 ~ 25kg)		(1)	×	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

● ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 105)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 106)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12 kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「II」に記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 107)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

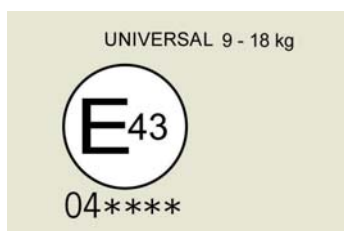
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1** ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

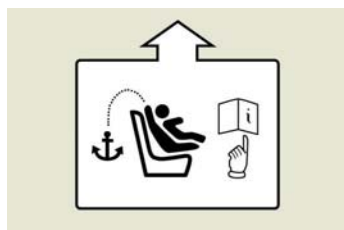
サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2** 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- 3** トップテザー（→ P. 111）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき



やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 子供専用シートを取り付け背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

1-7. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、必ず商品付属の取扱書に従ってください。

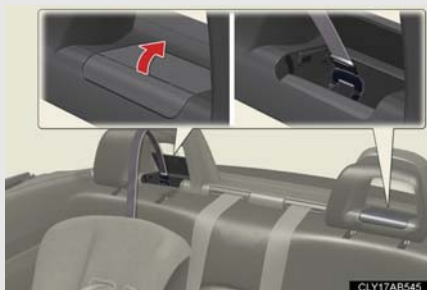


- 1** シートベルトによる取り付け
(→ P. 112)



- 2** ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー (→ P. 112)

リヤシートのそれぞれの座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



- 3** トップテザーアンカー
(→ P. 112)

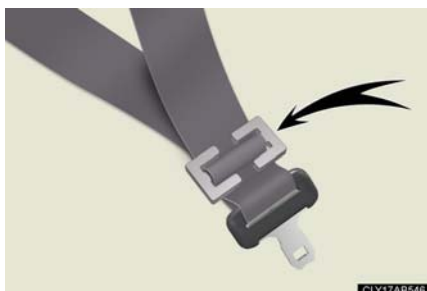
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保クルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

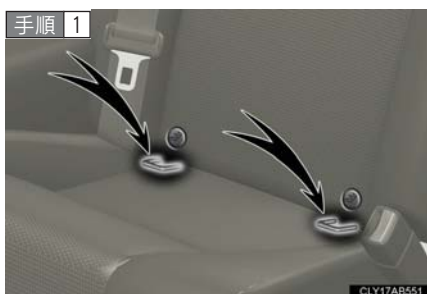


チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する。

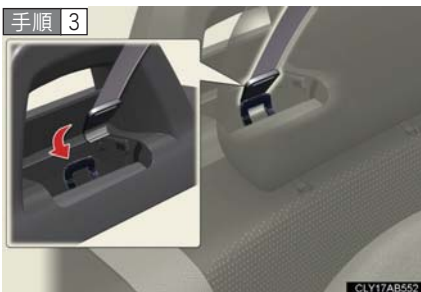
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、商品付属の取扱書に従ってください。



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されているか確認します。



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

チャイルドシートの大きさや形状によっては、先に固定専用バーにチャイルドシートを取り付けると、テザーベルトが装着できないことがあります。

その場合は、あらかじめテザーベルトをトップテザーアンカーにひっかけてからチャイルドシートを取り付け、最後にテザーベルトを締めてください。



警告

■チャイルドシートについて

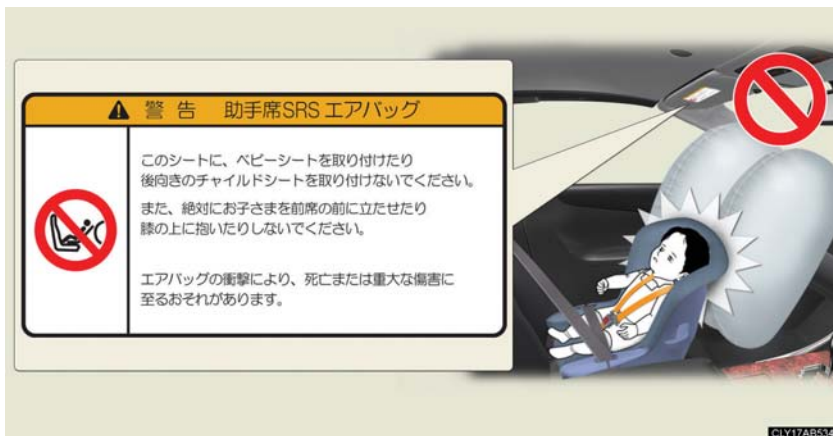
- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、子供がフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートについて



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げ、シートバックを直立させて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートについて

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にできるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトがはさまっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- リヤ席に取り付ける場合、ヘッドレストが倒れた状態でないことを確認してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 112）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。



注意

■トップテザーアンカーを使用するときは

カバーの開きすぎによる破損に注意してください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	118
エンジン（イグニッション）	
スイッチ	127
オートマチックトランス	
ミッション	131
方向指示レバー	137
パーキングブレーキ	138
ホーン（警音器）.....	139

2-2. メーターの見方

計器類.....	140
表示灯／警告灯	145
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	148

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ	152
フォグライトスイッチ	154
ワイパー & ウォッシャー	156
フロントワイパー	
デアイサー	159

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	160
レーダークルーズ	
コントロール	164
運転を補助する装置	175
ヒルスタートアシスト	
コントロール	180
プリクラッシュセーフティ	
システム	182

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	188
寒冷時の運転	190

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける (→P. 127)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。
(→P. 131)

手順 2 パーキングブレーキを解除する。
(→P. 138)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。 (→P. 131)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。
(→P. 138)

手順 3 シフトレバーを P にする。
(→P. 131)

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチを押してエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

 知識**■ 上り坂発進について**

ヒルスタートアシストコントロールを使用することもできます。(→P. 175)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。



警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションにいったまま惰性で後退したり、Rにいったまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、サイドガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 警告

- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 344 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しくなります。(→ P. 131)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ **停車するときは**

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。

どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

**警告****■ 駐車するときは**

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ スプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやサイドガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

 警告

■ **排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ **仮眠するときは**

必ずエンジンを止めてください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故や異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ **ブレーキをかけるときは**

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。直ちにブレーキの修理を受けてください。

 注意

■ 運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 299、P. 306、P. 318 をご覧ください。

 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作をおこなうことで、エンジンの始動または“エンジンスタートストップ”スイッチのモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑に点灯します。

緑に点灯しないとエンジンは始動しません。

手順 4



“エンジンスタートストップ”スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏みつけてください。

“エンジンスタートストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります。)



1 OFF *

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

* : シフトレバーがP以外のときはOFFになりません。

知識

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 88)

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 32

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 268

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

■ ご留意いただきたいこと

→P. 33

 警告

■ **エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジンスタートストップ”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ **エンジンを始動するとき**

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、直ちにエンジンの点検を受けてください。

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方



← “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	S モード走行※ ² (→ P. 134)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギヤ段へのシフトアップを抑えた走行ができます。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて以下のモードを選択できます。



- 1 パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）
 - 2 通常走行モード
 - 3 スノーモード（雪道など、滑りやすい路面での発進、走行）
- 通常走行モードにもどすときは SNOW を押します。

D ポジションでのレンジ選択

シフトパドルスイッチの“-”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切り替わります。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンプレーキ力を切り替えることができます。シフトパドルスイッチの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



- 1 シフトレンジアップ
 - 2 シフトレンジダウン
- 1～6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。
- 通常走行にもどすときは、シフトパドルスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的にかわります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的にかわります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的にかわります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的にかわります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的にかわります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンプレーキ力は大きくなります。

S モードでのレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切り替わります。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切り替えることができます。シフトパドルスイッチとシフトレバーの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

1 ～ 6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 5 レンジもしくは 4 レンジに設定されます。ただし D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれにしたがって、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。(→P. 136)

■ シフトレンジ機能

→P. 133



知識

■ D ポジションでシフトパドルスイッチの“－”側を操作したとき

D ポジションでシフトパドルスイッチの“－”側を操作したときの初期のレンジは、通常走行中のギヤ段より 1 段シフトダウンするレンジになります。

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

以下のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- シフトレンジが 6 レンジの状態であくセルペダルを踏んだとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

■ オートマチックトランスミッションの保護

トランスミッションフルードの温度が高くなると、自動的にシフトレンジアップします。

■ 走行時のギヤ段表示

実際のギヤ段はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
(→ P. 150)

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやシフトパドルを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります。)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

D ポジションでのレンジ選択走行中または S モードで走行中に 5 レンジまたは 4 レンジへダウンしてもエンジンブレーキは効きません。(→P. 160、164)

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■ シフトレバーが P からシフトできないときは

→P. 322

■ シフトレバーを S にしても、 が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なシフトレンジに切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。ただしシフトパドルスイッチの “-” 側を操作すると機能が制限されます。(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

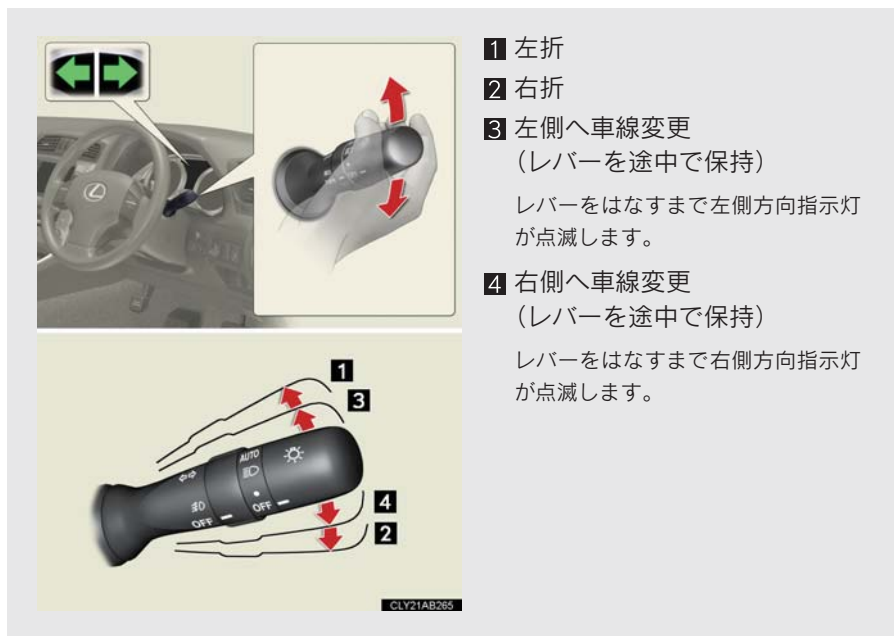


警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンプレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキがかかる※
(再度踏み込むと解除される)

※ 右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 190) の記載を参照してください。

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

2-2. メーターの見方

計器類



“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 148

3 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

4 REV インジケーター

設定したエンジン回転数に到達するとメーター内のリング状のインジケーターの色が黄色に変わります。ただし、危険エンジン回転数に到達すると赤色に変わります。

5 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

6 オドメーター

走行した総距離を表示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けことができます。

7 車速インジケーター

設定した速度に到達するとメーター内のリング状のインジケーターの色が黄色に変わります。ただし、危険速度に到達すると赤色に変わります。

8 燃料計

燃料残量を示します。

9 オドメーター／トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットボタン

ボタンを押すごとに表示が切り替わります。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離を 0 に戻します。

インストルメントパネル照度調整ダイヤル

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くなる
- 2 明るくなる

車速インジケーター・REV インジケーター

■ インジケーターの ON/OFF 切り替え



マルチインフォメーションディスプレイにサテライトスイッチモードを表示する。

サテライトスイッチの「<」か「>」、または ON/OFF ボタンのいずれかを押します。



設定を変えたい項目を選ぶ。

サテライトスイッチの「<」か「>」を押して、設定を変更したい項目を表示させます。



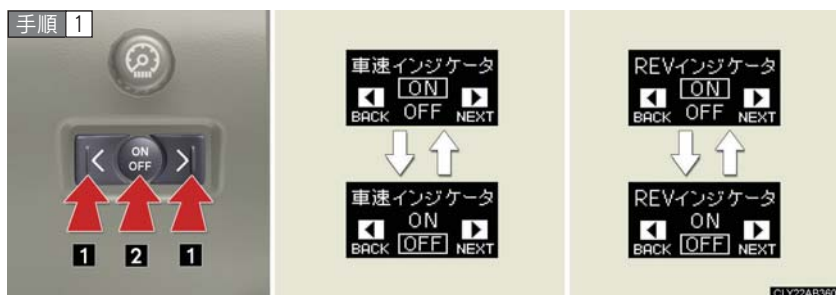
設定を変更する。

ON/OFF ボタンを押して設定のオン/オフなどを変更します。

■ 設定の変更

サテライトスイッチを使って、インジケータを表示させる速度またはエンジン回転数を変更することができます。

停車状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき設定することができます。



サテライトスイッチの「<」または「>」を押して、車速インジケータ・REVインジケータの設定項目表示にする。(1) ON/OFF ボタンで OFF にしてから ON に設定する。(2)



1 秒後に、車速・エンジン回転数設定モードに切り替わります。

前回設定した速度・エンジン回転数まで指針が動きます。



6 秒以内にサテライトスイッチの◀または▶を希望の速度・エンジン回転数になるまで押し、ON/OFF ボタンを押して、設定を ON にする。

スイッチを長押しすると、針の動きが早くなります。

サテライトスイッチをしばらく操作しないと、元の表示に戻ります。



インジケータが黄色で点灯すると速度・エンジン回転数の設定は終了します。



知識

■ 車速インジケータの表示条件と車速設定範囲

車速設定範囲：約 50 ～約 120 km/h

車速を最大値に設定した場合は、車速インジケータは赤色に点灯します。

■ REV インジケータの表示条件とエンジン回転数設定範囲

回転数設定範囲：約 2000 ～約 6500 rpm

エンジン回転数を最大値に設定した場合は、REV インジケータは赤色に点灯します。

■ インストルメントパネル照度の減光制御について

ライトスイッチが ON になるとメーター照明が減光されます。ただし、インストルメントパネル照度調整ノブを右側いっぱいに回した状態では、ライトスイッチが ON になってもインストルメントパネル照明は減光されません。また、このときナビゲーション画面は、夜画表示には切り替わりません。



注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンにはいったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 331）

2

運転するときに

A close-up photograph of the front passenger seat area. The center console is dark grey with the word 'PASSENGER' in white capital letters. Below the text is a red seatbelt icon. To the right of the seatbelt icon is a red triangle warning icon. Above the console, there are four buttons: 'AUTO', 'OFF', a car icon with a seatbelt, and a car icon with a seatbelt and the text 'FRONT'.

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 137)



尾灯表示灯 (→P. 152)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 152)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 154)



リヤフォグ
ライト表示灯*
(→P. 154)



シフトポジション・シフトレンジ表示灯
(→P. 131)



ECT SNOW 表示灯
(→P. 132)



ECT PWR
表示灯 (→P. 132)



クルーズコントロール
表示灯 (→P. 160、164)



クリアランスソナー表示灯*
(→ 別冊「ナビゲーション
システム取扱説明書」参
照)



※
スリップ表示灯
(→P. 176)
(点滅)



※
VSC OFF 表示灯
(→P. 176)

※ 作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 280)



※ 作動確認のために“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。



- トリップインフォメーション
(→P. 149)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- サテライトスイッチモード表示
(→P. 206)

サテライトスイッチを使って各種機能の設定を変更できます。

- クリアランスソナー表示*
(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

- レーダークルーズコントロール表示*
(→P. 164)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- メタルトップ状態表示
(→P. 77)

メタルトップの作動状況を表示します。

- 警告メッセージ (→P. 286)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション



項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

■ 外気温



外気温度を表示します。

-40°C ~ 50°C の間で表示します。

3°C 以下になると数字が 10 秒間点滅します。

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際は“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。万一、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

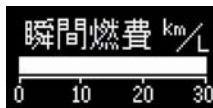
■ 給油後平均燃費



給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均車速



エンジンをかけてから、またはリセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。

■ ギヤ段表示



D ポジションまたは S モードのとき、現在のシフトレンジにおいて自動変速するギヤ段（許可ギヤ段）の範囲を・（ドット）で表示し、現在のギヤ段を数字で表示します。

左のイラストの場合、許可ギヤ段は 1 ～ 6 速（シフトポジション D または S モードの 6 レンジ）で、現在のギヤ段は 3 速です。



知識

■ システムチェック表示

“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため「チェック中」と表示されます。チェックが終わると「チェック完了」と表示され、通常の画面表示になります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）



警告

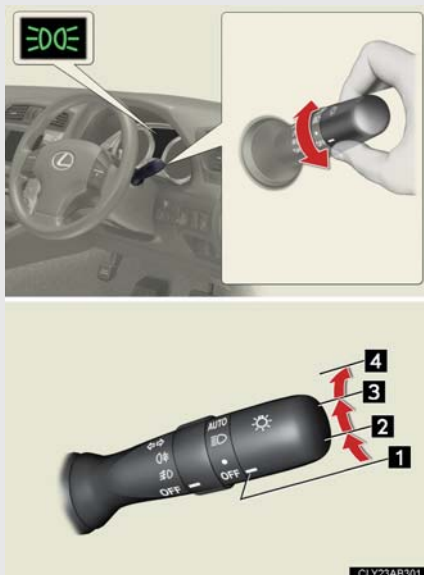
■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切り替わらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンプレーキがかかり、重大な傷害や死をもたらす事故につながるおそれがあります。

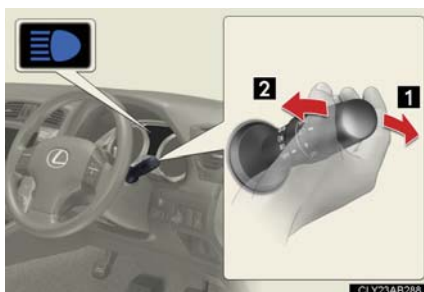
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 1 **OFF** 消灯
- 2 **●** 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- 3 **☰** 上記ライトとヘッドライトを点灯
- 4 **AUTO** ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジン スタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき）

ハイビームにする



- 1 ライト点灯時ハイビームに切り替え
レバーを元の位置へもどすとロービームに戻ります。
- 2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームに戻るまたは消灯します。

 知識

■ ライトセンサー



センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF に戻し、再度  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 353)

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

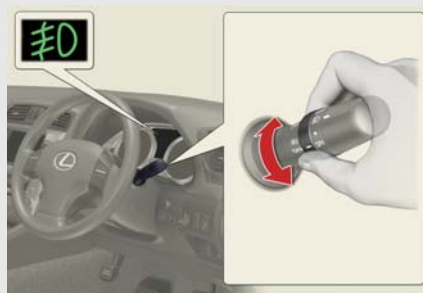
エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

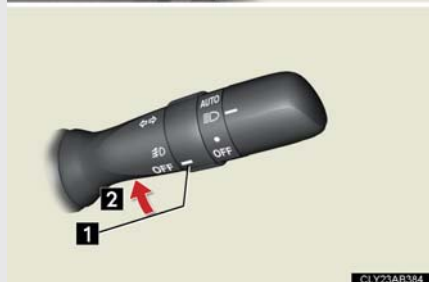
フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。(リヤフォグライトはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。)

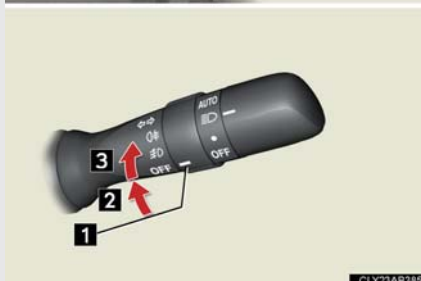
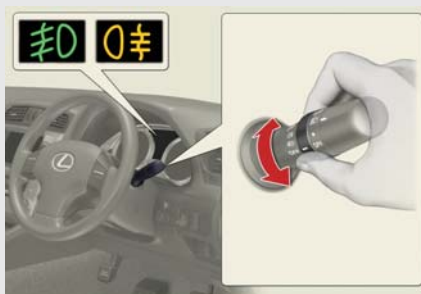
■ フロントフォグライトスイッチ



- 1 **OFF** レバーをまわして消灯する
- 2 **ON** レバーをまわして点灯する



■ フロント&リアフォグライトスイッチ*



- 1 **OFF** レバーをまわして消灯する
- 2 **F** レバーをまわしてフロントフォグライトを点灯する
- 3 **R** レバーをまわしてフロント&リアフォグライトを点灯する

手を離すと **F** の位置までもどります。

再度操作すると、リアフォグライトのみ消灯します。

知識

■ リアフォグライトについて

- リアフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

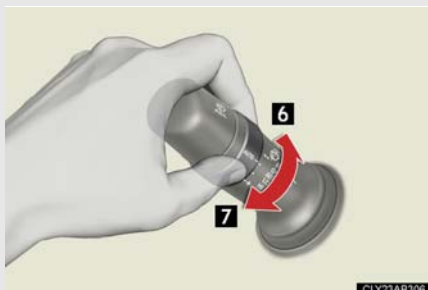
AUTO が選択されているときは、レバーをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 1 **OFF** 停止
- 2 **AUTO** 雨滴感知オート作動
- 3 **LO** 低速作動
- 4 **HI** 高速作動
- 5 **MIST** 一時作動



CLY23AB305



CLY23AB305

- 6 雨滴センサーの感度調整（低）
- 7 雨滴センサーの感度調整（高）



8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動した後、液だれ防止としてさらに1回作動します。)



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）がかわります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

■ 雨滴感知センサー



● センサーが雨滴量を判定します。

- “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-30℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ワイパー連動機能

ワイパーを作動させると、ミラーヒーターが作動します。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■販売店で設定可能な機能

液だれ防止作動の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 353)

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったらときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

フロントワイパーデアイサー*

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。



オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約15分で自動的にオフになります。

警告

■ 作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 クルーズコントロールスイッチ

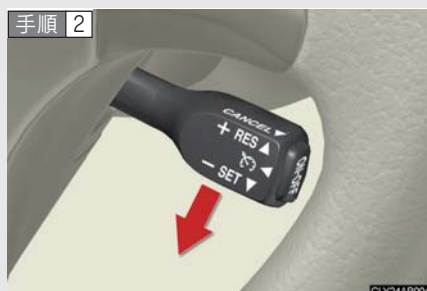
■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF には、再度スイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

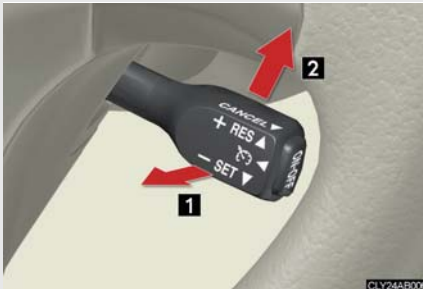
2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
 微調整：レバー操作することにより約 1.6 km/h
 調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速は約 40 ～ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールをキャンセルしなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ 定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

2-4. その他の走行装置の使い方

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の车速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



- 1 表示灯
- 2 ディスプレイ
- 3 設定速度
- 4 車間距離切りかえスイッチ
- 5 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 車速を設定する（車間制御モード）



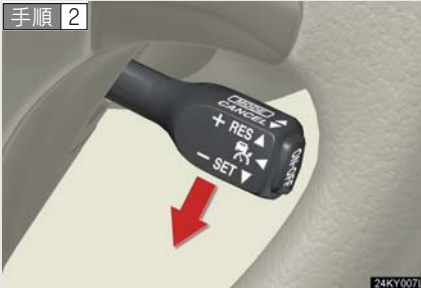
ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFFにするには再度ON-OFFスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

レバーを保持する間

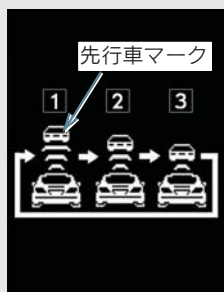
微調整で設定速度を変更することはできません。

定速制御モード（→P. 169）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。（→P. 166）

（時速 80 km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させるには



- 1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

- 2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

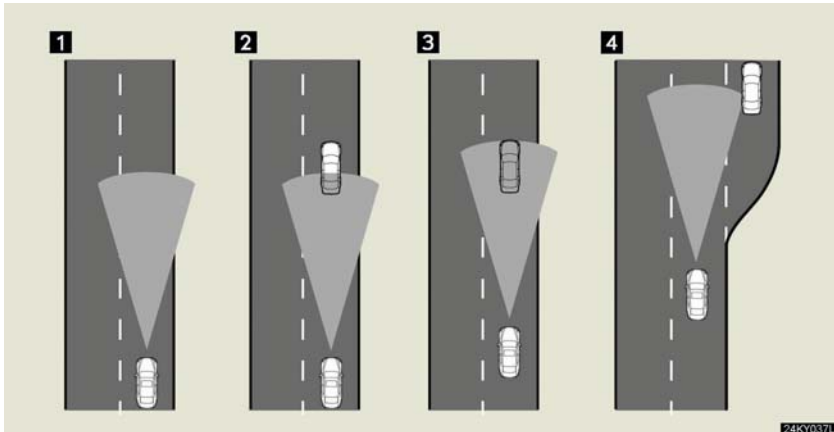
レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。



- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF するには再度 ON-OFF スイッチを押します。

- 2 定速制御モードに切り替え
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続ける

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、再度 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードに戻ります。

設定速度を変えるには

→P. 165

制御を解除する・復帰させるには

→P. 166



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速は約 50 ～ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを AUTO モードまたは高速作動の位置にしたとき）
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの警告灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。(→P. 280, 286)

 警告

■ **安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■ **システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● **運転者が見る過程での支援内容**

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● **運転者が判断する過程での支援内容**

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● **運転者が操作する過程での支援内容**

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ **誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- 車両けん引時

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 168）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではありません。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

滑りやすい路面での発進時や加速時に後輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

→P. 180

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、ブレーキアシスト、TRC、VSC、EPSを総合的に制御します。

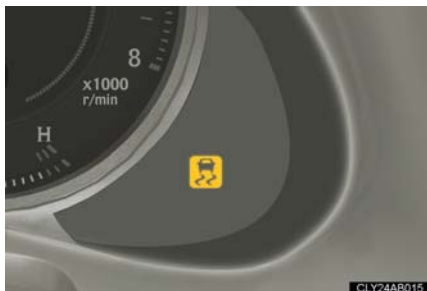
滑りやすい路面の走行などで急なハンドル操作をする際に、ブレーキ、エンジン出力、ハンドル操作力を制御することで、車両の姿勢維持に役立ちます。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 182

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

TRC、VSC が作動しているとき



VSC、TRC が作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押します。

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ TRC と VSC を停止するには



TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

マルチインフォメーションディスプレイ上にメッセージが表示され、VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

知識

■ VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、エンジンをかけなおすと自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象※が発生したとき

※：水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面のあいだに水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告**■ TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC や VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無理な運転は思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したらとくに慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC、VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 233）

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC、TRC が正常に作動しません。

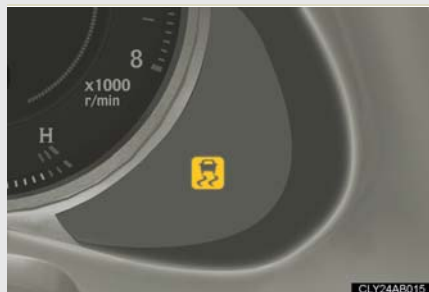
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運動を補助する装置に悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を防止し発進を容易におこなうことができます。



車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- シフトレバーがP以外の位置のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯が点灯します。
- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約2秒間です。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度) その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが1回鳴ります。(シフトレバーがRの位置以外)
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。(シフトレバーがRの位置以外)
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作をおこなわなかったとき
 - ・シフトレバーをPの位置にしたとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
 - ・ブレーキペダルから足を離さずに約3分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面では、車両を停止させることができない場合があります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

プリクラッシュセーフティシステム*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 61)

ただし、VSC が作動していないときに横すべりした場合は作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

前方の車両や障害物と衝突の可能性が高いとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

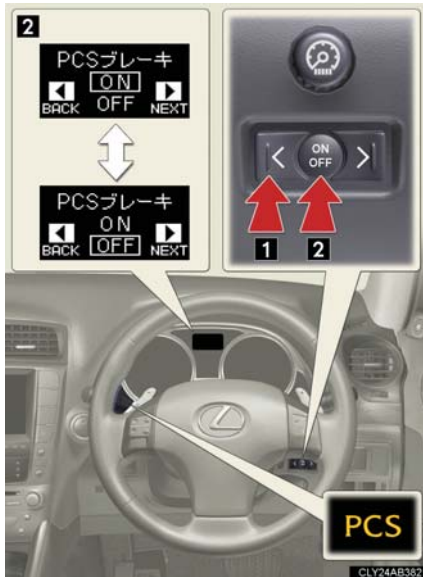
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。サテライトスイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切り替え

サテライトスイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。(→P. 206)



サテライトスイッチの<<または>>を押して、PCS ブレーキの設定モードにする。(1) サテライトスイッチの中央のON/OFFボタンを押して、ON または OFF に設定する。(2)

スイッチを押してから表示が切り替わるまで約3秒かかります。

OFF にすると PCS 警告灯が点滅します。

レーダーセンサー（レーダー方式のみ）



走行中に路上またはその付近に車や物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

- 1 グリルカバー
- 2 レーダーセンサー



知識

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ A）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横滑りを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（タイプ B）：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自転車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストへの作動条件：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自転車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキへの作動条件：

- ・ プリクラッシュブレーキが ON になっている
- ・ 自転車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自転車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自転車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自転車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

- 雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- VSC が作動していないときに車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- レーダーの軸がずれているとき

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口に路側物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- 立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- ETC ゲートを高速で通過したとき
- 路面の勾配のため、看板などの金属物が進行方向に見えるとき
- 車高が極端に変化しているとき
- レーダーの軸がずれているとき
- 陸橋を通過するとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引き戻されたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトを外し、再度装着してください。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 280、286）



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 警告**■レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない。
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではありません。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

■プリクラッシュセーフティシステムの限界

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

**警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を取り付けられるタイヤにはタイヤチェーンを用意してください。（→ P. 233）
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（タイヤについて → P. 233）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

- 18 インチタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
- 18 インチタイヤ以外のタイヤを装着している場合：取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。
 - ・ 安全に作業できる場所でおこなう
 - ・ 後 2 輪に取り付ける
 - ・ タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう

 警告

■ **冬用タイヤ装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■ **タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（氷雪路）を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ **駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。

ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	194
・ インテリアライト	196
・ パーソナルライト	196

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	197
・ グローブボックス	198
・ コンソールボックス	199
・ カップホルダー	200
・ 小物入れ	202

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	203
バニティミラー	204
時計	205
サテライトスイッチ	206
灰皿	210
シガレットライター	211
アクセサリソケット	212
シートヒーター	213
シートヒーター & ベンチレーター	215
フロアマット	217
トランク内装備	219

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

車の乗り降りがスムーズにできるように、イルミネテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“エンジンスタートストップ”スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。



- 1 シフト照明（“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モード）
- 2 インテリアライト（→P. 196）
- 3 パーソナルライト（→P. 196）
- 4 フロント足元照明
- 5 スカッフプレート照明*
- 6 ドアカーテシー照明
- 7 ドアミラー照明

インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、シフト照明とフロント足元照明が消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備



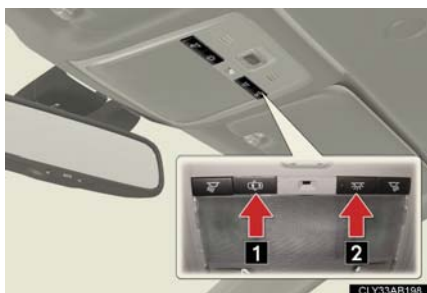
■ バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 353)

インテリアライト



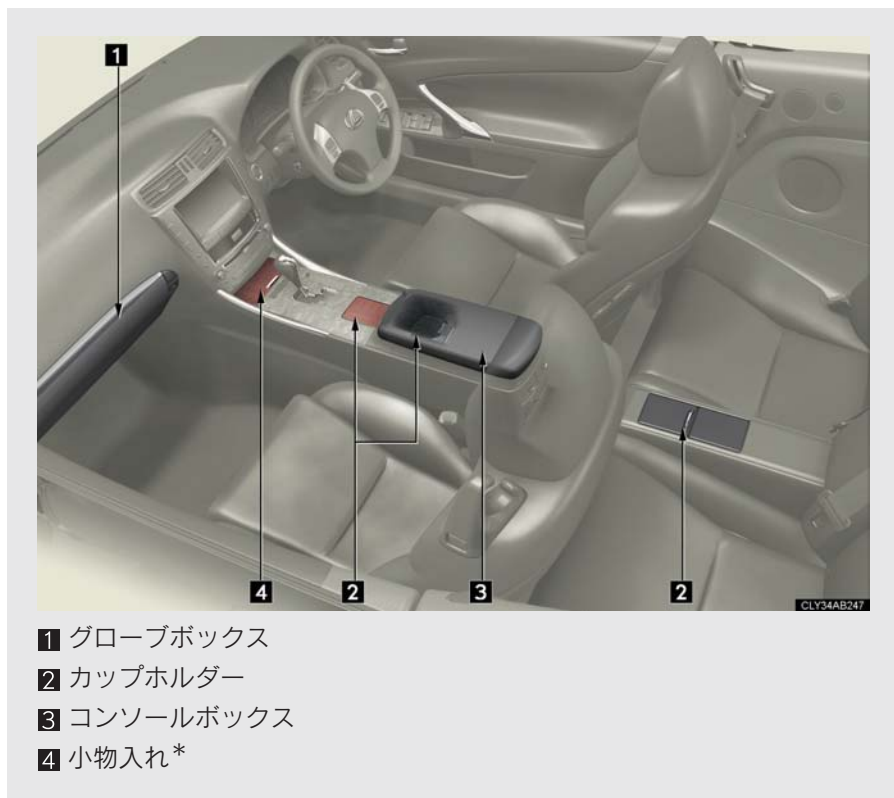
- 1 ドアポジション（ドア連動）
ON/OFF
- 2 ON（点灯）/OFF（消灯）

パーソナルライト



点灯／消灯

収納装備一覧



- 1 グローブボックス
- 2 カップホルダー
- 3 コンソールボックス
- 4 小物入れ*

⚠ 警告

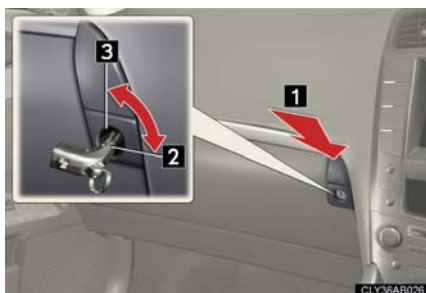
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

グローブボックス



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 メカニカルキーで解錠

知識

■グローブボックスライト

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときは、グローブボックス内のライトが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 43）

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

コンソールボックス

コンソールボックス



- 1 ノブを持ち上げてロック解除
- 2 スライド
- 3 ノブを持ち上げてロック解除
- 4 アームレストを持ち上げて開く



知識

■ コンソールボックスライト

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときは、コンソールボックス内のライトが点灯します。

■ コンソールボックスを CD ケース入れとして使う



CD ケースのヒンジ部分をコンソールボックスの前方または後方に向けて CD ケースを収納します。



警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

カップホルダー

▶ フロント（プッシュ式）



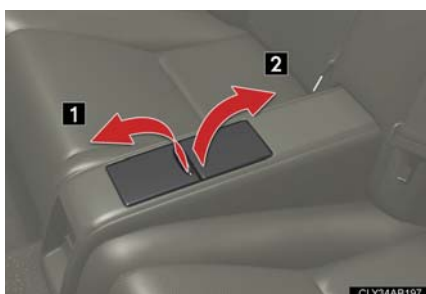
カップホルダーのふたの前側を押して開ける

▶ フロント（スライド式）



- 1 ノブを持ち上げてロック解除
- 2 アームレストをスライドする

▶ リヤ



- 1 前側のフタを開ける
- 2 うしろ側のフタを開ける

カップホルダー



■ カップホルダーの仕切り部について

▶ フロント（スライド式）



ベース部分を持って仕切り部を取りはずすことができます。

▶ リヤ



カップホルダー内を清掃するために、仕切り部を取りはずすことができます。

3

室内装備の使い方

⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの（フロントブッシュ式、リヤ）

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。

急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

■ やけどを防ぐために

温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

小物入れ*



ふたの後部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押します。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

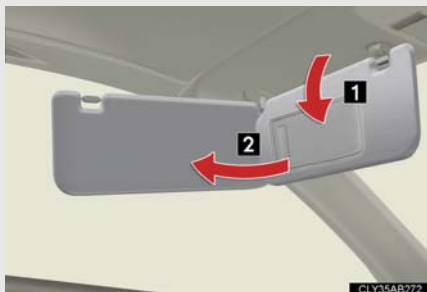
小物入れを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-3. その他の室内装備の使い方

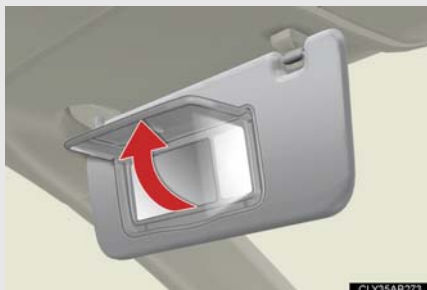
サンバイザー



- 1 下ろす
- 2 下ろした状態でフックからは
ずし、横へまわす

3-3. その他の室内装備の使い方

バニティミラー



カバーを開けて使用します。

カバーを開けるとライトが点灯します。

時計



- 1 “時” を調整する
- 2 “分” を調整する
- 3 “分” を 00 にする※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■時刻が表示されるとき

“エンジンスターストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのとき

3-3. その他の室内装備の使い方

サテライトスイッチ

サテライトスイッチを使って、各種機能の設定を変更できます。設定内容はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 操作のしかた

手順 1



マルチインフォメーションディスプレイにサテライトスイッチモードを表示する。

サテライトスイッチの **<** または **>**、または ON/OFF ボタンのいずれかを押します。

手順 2



設定を変えたい項目を選ぶ。

サテライトスイッチの **<** または **>** を押して、設定を変更したい項目を表示させます。

手順 3



設定を変更する。

ON/OFF ボタンを押して設定のオン / オフなどを変更します。

プリクラッシュブレーキの設定時は、ON/OFF ボタンを押してから表示が切りかわるまで約 3 秒かかります。

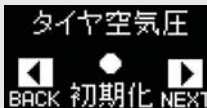
■ サテライトスイッチで設定できる項目



侵入センサーのオン / オフ切り替え (→P. 89)



クリアランスソナー※のオン / オフ切り替え*



タイヤ空気圧警報システムの初期化 (→P. 235)



タイヤ空気圧バルブ / 送信機の ID コードの選択 (→P. 236)



プリクラッシュブレーキのオン / オフ切り替え* (→P. 182)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。



車速インジケータのオン / オフ切り替え、車速の設定 (→P. 141)



REV インジケータのオン / オフ切り替え、エンジン回転数の設定 (→P. 141)



ドアミラーの自動格納機能のオン / オフ切り替え* (→P. 68)



フロントシートオートリターンのオン / オフ切り替え (→P. 48)

 知識

■ 設定切り替えの条件

各項目は以下の状況のときのみ画面に表示され、設定を切り替えることができます。

- 侵入センサー : “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF で、オートアラームがセットされていないとき
- クリアランスソナー* : “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
- それ以外の項目 : “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードで、停車しているとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ディスプレイの表示について

サテライトスイッチをしばらく操作しないと、もとの表示に戻ります。

また、サテライトスイッチモード表示中でも、警告内容が発生した場合やレーダークルーズコントロール*を使用する場合は表示が切り替わります。その場合は、サテライトスイッチのいずれかのスイッチまたはDISPスイッチを押すとサテライトスイッチモードに戻ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-3. その他の室内装備の使い方

灰皿*

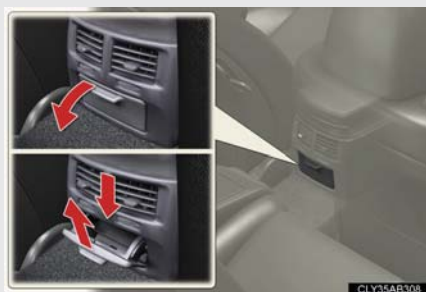
▶ フロント



ふたの後部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押します。

取りはずすときは、レバーをスライドさせます。

▶ リヤ



ふたの上部を引いて開けます。

取りはずすときは、プレートを押さえて引き上げます。

⚠ 警告

■ 使用後について

ふたを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

● マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

● 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

シガレットライター*



シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。



知識

■使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのとき



警告

■使用後について

ふたを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-3. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



知識

■ 使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションONモードのとき

注意

■ ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

シートヒーター*



シートをあたためる

インジケーターが点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルを“0”に合わせてください。インジケーターが消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **やけどについて**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 注意

■ **シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはダイヤルを 0 の位置にしてください。

シートヒーター＆ベンチレーター*

シートをあたためたり、シートから風を出して通気を良くできます。



1 シートをあたためる

インジケーター（オレンジ）が点灯します。
大きい数字に合わせるほど高温になります。

2 シートから風を出す

インジケーター（緑）が点灯します。
大きい数字に合わせるほど風量が強くなります。



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルを 0 に合わせてください。インジケーターが消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **やけどについて**

- 低温やけどを負う恐れがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常加熱の原因になります。

 注意

■ **シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

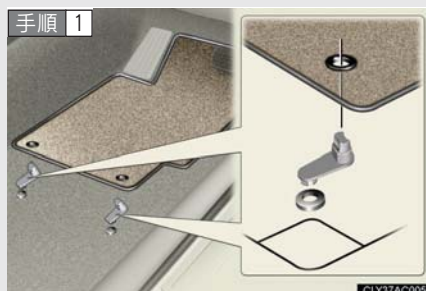
■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはダイヤルを 0 の位置にしてください。

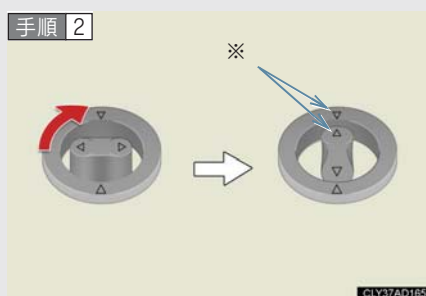
フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。



固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



固定フック（クリップ）上部レバーをまわして固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

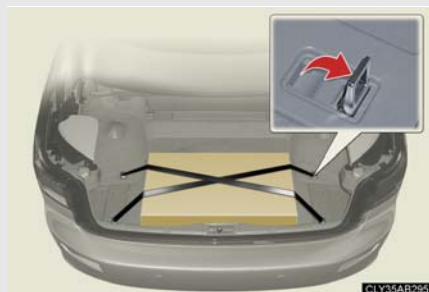


- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

3-3. その他の室内装備の使い方

トランク内装備

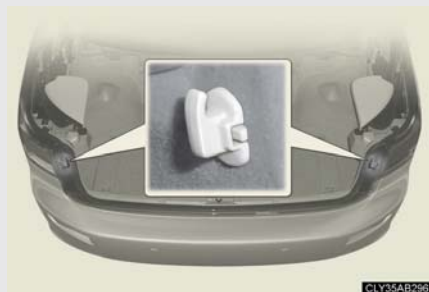
■ 荷物固定用フック



フックを使って荷物を固定することができます。

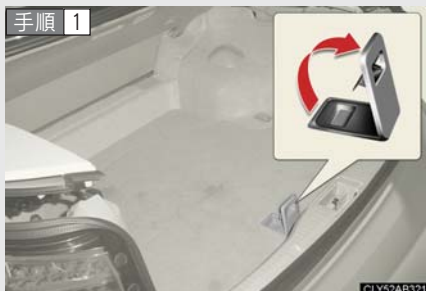
フックを起こして使用してください。

■ 買い物フック



■ ラッゲージアンダートレイ*

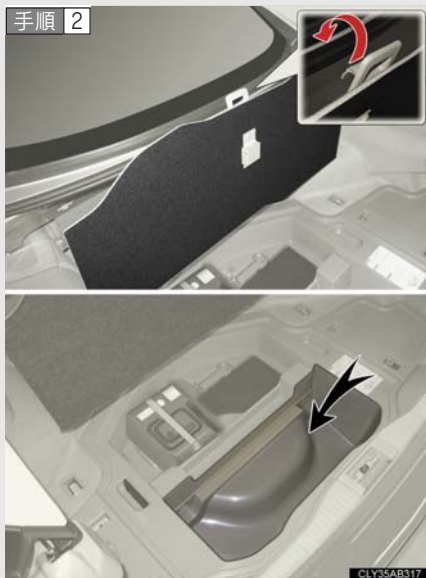
手順 1



レバーを引き上げ、ラッゲージマットを持ち上げる

▶ パンク修理キット装着車

手順 2

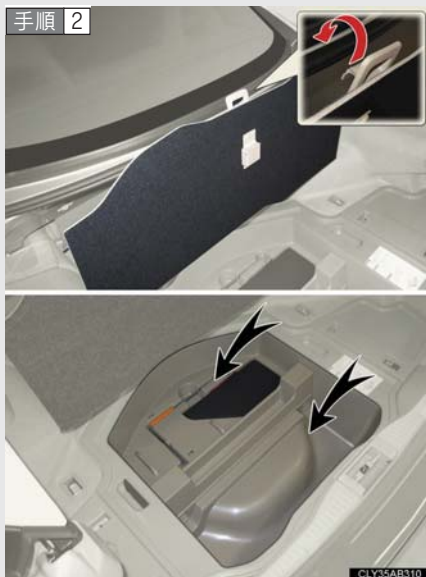


レバーをトランクの縁にかけてラッゲージマットを固定する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ ランフラットタイヤ装着車

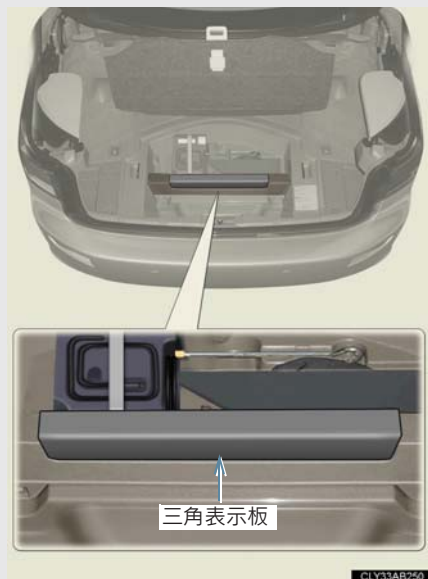
手順 2



レバーをトランクの縁にかけて
ラゲージマットを固定する

■ 三角表示板収納スペース

▶ パンク修理キット装着車およびランフラットタイヤ装着車



三角表示板を収納することができます。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)

▶ スペアタイヤ装着車

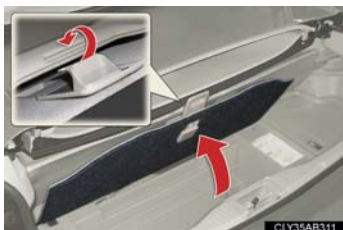


三角表示板を収納することができます。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)

 知識

■ メタルトップを開けているときのラゲージアンダートレイの使用について



ラゲージカバーのボード部に、ラゲージマットを固定して使用することができます。

■ ラゲージアンダートレイのセパレーターについて



左右のレバーを引き上げながら、手前に引いて取りはずすことができます。

メタルトップを開けているときでも取りはずすことができます。

 警告

■ 荷物固定用フックを使用しないときは

必ずもとの位置に戻しておいてください。

 注意

■ ラゲージマットにものを置くときは

- 必ずセパレーターを取り付けてください。
- マットの中央部には 20 kg 以上のものを置かないでください。

■ トランクを閉めるときは

ラゲージマットのレバーをトランクの縁にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	226
内装の手入れ	230
タイヤについて	233

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	241
ガレージジャッキ	244
エンジンルームカバー	247
電球（バルブ）の交換	249
ヒューズの点検、交換	257
電子キーの電池交換	268
ウォッシャー液の補給	270

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

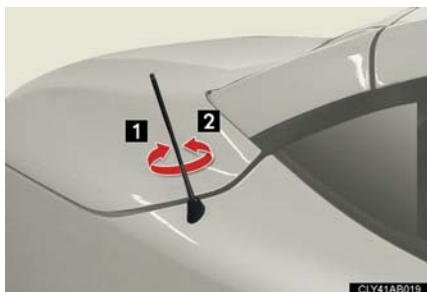
- 水を十分かけながらボデー、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

アンテナは取りはずすことができます。



1 取りはずす

2 取りつける

 知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をサイドガラスやルーフの合わせ目付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を痛めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■ バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P.69）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
(汚れの量や種類により、回復時間は異なります)

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元に戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取りつけてください。
- 洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーベットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 59)

**警告****■ 車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 95)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。



注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロント／リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

4-1. お手入れのしかた タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの磨耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

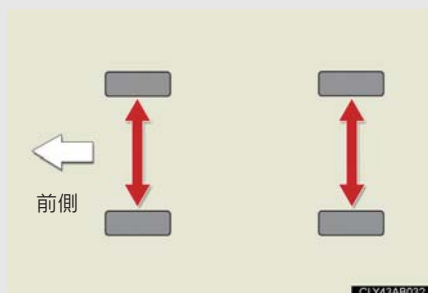
● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

▶ 回転方向指示がないタイヤ



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

▶ 回転方向指示があるタイヤ

タイヤをローテーションすることはできません。

■ タイヤ空気圧システム

タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムがついています。

タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、タイヤ空気圧を補充してください。

回転に方向性があるタイヤ*



回転方向指示マーク

タイヤの側壁に回転方向が表示されています。間違った方向にタイヤを装着してしまうと、タイヤの性能を損ないます。

ランフラットタイヤ*

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても、80km/h を超えない速度で、約 160km まで走行することが可能です。(ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります。)



ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に RFT または DSST というマークがついています。

160km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を装着してください。

新しいタイヤ空気圧警報バルブ／送信機を装着する場合は、タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID コードをコンピューターに登録し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。ID コードの登録は、レクサス販売店へ依頼ください。(→P. 236)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

- 走行速度、重量変化等でタイヤ空気圧を変更した場合
- タイヤサイズを変更した場合

タイヤ空気圧の初期化は、初期化操作を行ったときのタイヤ空気圧を基準として記憶されます。

■ 初期化のしかた

初期化をおこなうには、サテライトスイッチを使用してください。
(→P. 206)

手順 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

手順 2 タイヤの空気圧を指定の圧力に調整する (→P. 237)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態でおこなってください。

手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする



1 タイヤ空気圧初期化画面を表示する

サテライトスイッチの「<」または「>」を押して、画面を表示させます。

2 タイヤ空気圧の設定を登録する

タイヤ空気圧警告灯が3回点滅するまで、ON/OFF スイッチを押したままにします。

手順 5 “エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードのまま2、3分待機し、その後、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードの登録・選択

■ ID コードの登録

タイヤ2セット分のタイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID コードが登録できます。

一度2セット目の ID コードを“2ND”に登録すると、タイヤセットの使い分けがタイヤ空気圧警報セレクトスイッチの切り替えのみで行えます。

“MAIN”：車両購入時のタイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID コードが登録されています。

“2ND”：車両購入時には登録されていません。2 セット目のタイヤセットが必要な場合にタイヤ空気圧警報バルブ／送信機をレクサス販売店で購入後、レクサス販売店で登録してください。

■ ID コードの選択

タイヤ交換を行ったときは、装着したタイヤセットに合った ID コードを選択してください。選択が正しくないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。約 20 分走行後、タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅後点灯し異常表示します。



1 タイヤ選択画面を表示する

サテライトスイッチの<または>を押して、画面を表示させます。

2 ID コードを選択する

ON/OFF スイッチを押して、“MAIN”と“2ND”を切り替えます。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



前輪：240 kPa (2.4 kg/cm²)

後輪：260 kPa (2.6 kg/cm²)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 低扁平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力も低下します。冬用タイヤかタイヤチェーン※を使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

※ 18 インチタイヤ付車にはタイヤチェーンは取り付けられません。

■ 低扁平タイヤの空気圧点検

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1 ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■ タイヤがパンクしたときの対処法

ランフラットタイヤ装着車、パンク修理キット搭載車、スペアタイヤ搭載車それぞれで対処法が異なります。（→P. 297、306、318）

■ ランフラットタイヤの取り扱いについて

- ランフラットタイヤを他の車には使用しないでください。
- ランフラットタイヤとランフラットタイヤ以外のタイヤを混ぜて使用しないでください。
- 純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能性が発揮されないおそれがあります。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常2、3分で終了します。ただし、以下の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化しなおしてください。それでもうまくいかないときはレクサス販売店にて点検を受けてください。

- スイッチ操作時に警告灯が点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません。）
- 初期化してから約20分走行した後、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後点灯した場合

■ 日常点検について

タイヤ空気圧警報システムは、日常の空気圧チェックの代用ではありません。日常のタイヤ空気圧チェックは必ず実施してください。



警告

■ タイヤ空気圧警報システムの作動について

タイヤの破裂や急な空気漏れが発生したときは、システムがすぐに作動しないことがあります。

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■ タイヤ空気圧を初期化するときは

タイヤ空気圧を必ず指定の基準圧にしてから初期化してください。守らないと、タイヤ空気圧警告灯が正しく点灯しないことがあります。

 警告**■ 異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

 注意**■ 低扁平タイヤについて**

低扁平タイヤ付きホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用してください。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気漏れが起こったら

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。



注意

■ **タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が異常表示します。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ **パンクしたタイヤへのパンク修理キットの使用について**

パンク修理キットを使用した場合、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しなくなる可能性があります。

パンク修理キットを使用したときは、タイヤ交換と一緒にタイヤ空気圧警報バルブ／送信機も交換してください。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1



ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネットを開ける。

警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前に、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

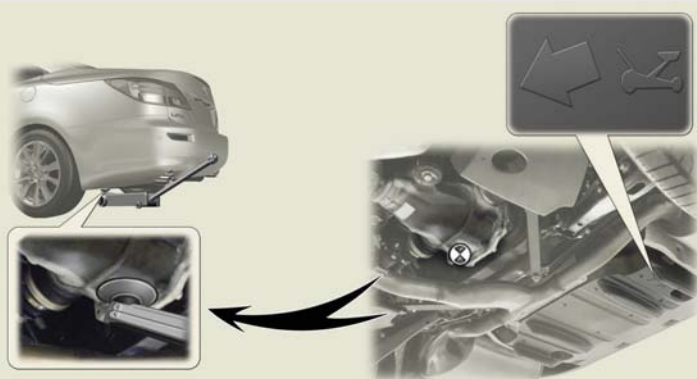
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



CLY43AB460



CLY43AB462

カバーにある矢印に沿って、斜めにジャッキを挿入してください。

真後ろからは挿入しないでください。真後ろから挿入すると、ジャッキアームとエキゾーストパイプが干渉するためジャッキをセットできません。

警告

■ 車両を持ち上げる時には

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下に物を置かないでください。
- 車両を持ち上げるときは、車両両側に十分なスペースを確保してください。ジャッキアップ前と後で、車両の位置が移動することがあります。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

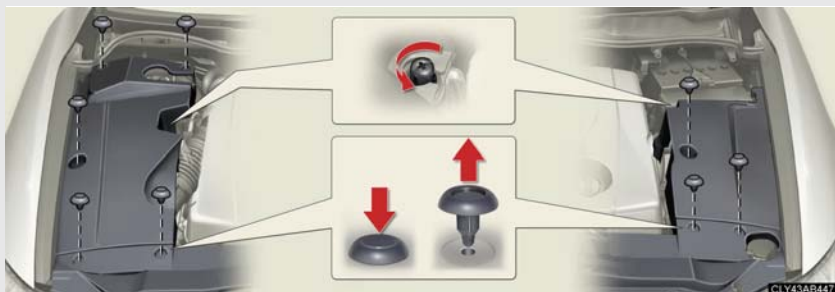
ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

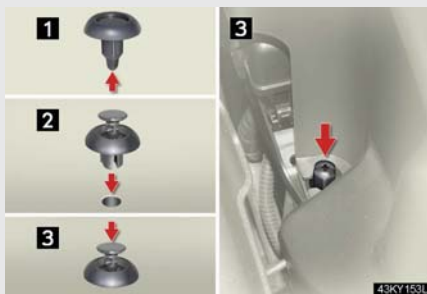
▶ フロント



▶ サイド



■ クリップの取り付け方



- 1 机のような固い面にクリップの先端を押しあて、クリップの中央部分を押しあげます
- 2 差し込む
- 3 押す

 警告

■ **けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ **エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

元の場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 351）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 247

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換の仕方

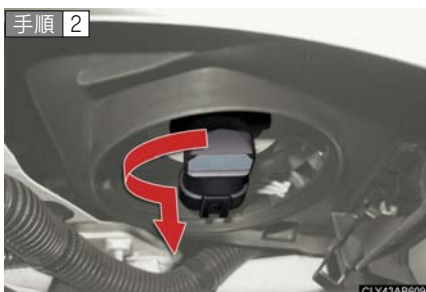
■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1



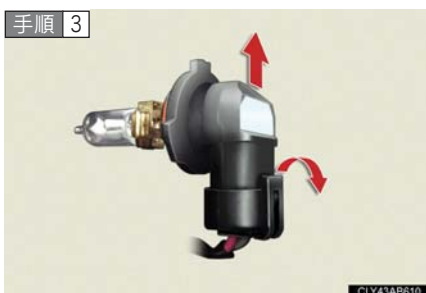
カバーを取りはずす。

手順 2



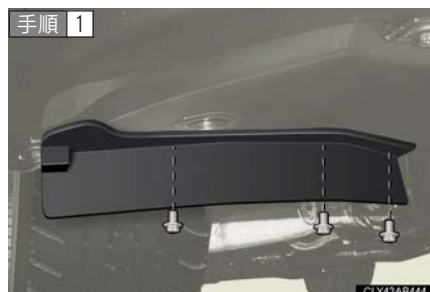
ソケットを取りはずす。

手順 3



電球を取りはずす。

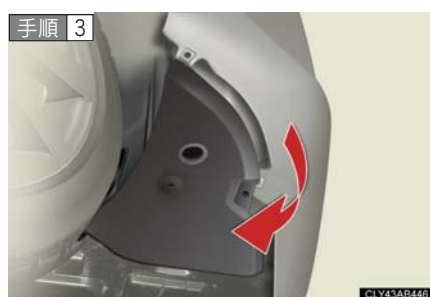
■ フロントフォグライト



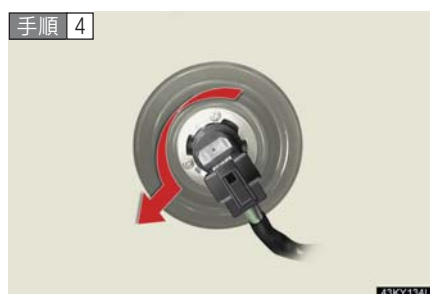
フロントスパッツ固定ボルトをはずす。



フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずす。



フェンダーライナーをめくる。



ソケットを取りはずす。

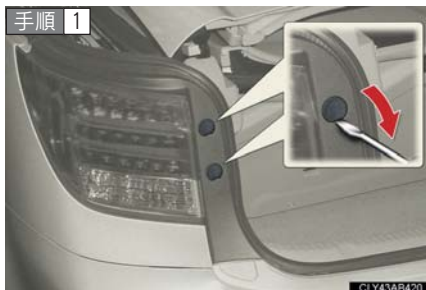
手順 5



電球を取りはずす。

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

手順 1



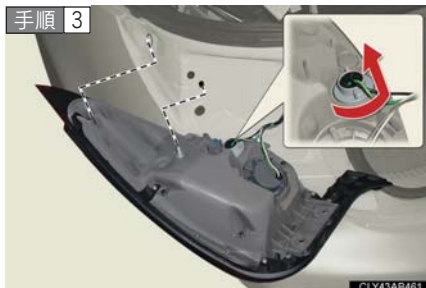
トランクを開け、カバーをはずす。

手順 2



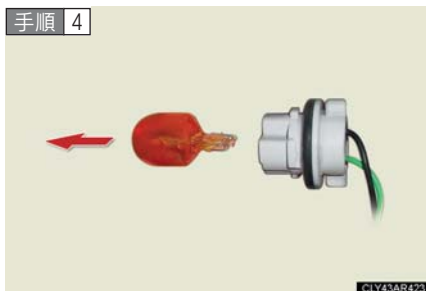
ボルトをはずし、ライトユニットを取りはずす。

手順 3



ソケットを取りはずす。

手順 4



電球を取りはずす。

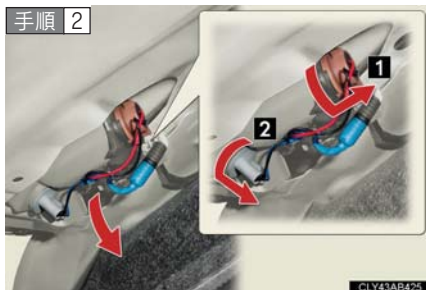
■ 後退灯、リヤフォグライト*

手順 1



トランクを開け、トランクパネルカバーのクリップを取りはずす。

手順 2

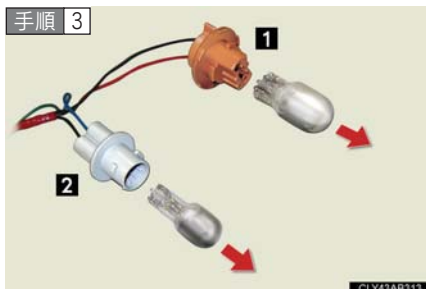


トランクパネルカバーの一部をはずし、ソケットを取りはずす。

1 リヤフォグライト*

2 後退灯

手順 3



電球を取りはずす。

1 リヤフォグライト*

2 後退灯

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム／ハイビーム（ディスチャージバルブ）
- 車幅灯
- フロント方向指示兼非常点滅灯
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 尾灯
- 番号灯

知識

■ 左側のヘッドライト（ハイビーム）を交換するときは



ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動させると、交換しやすくなります。

交換後は、必ずウォッシャー液補給口をボルトで固定してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常に戻ると再点灯します。

警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■ ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に2万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

注意

■ フロントフォグライトの電球交換について

ご自身で電球交換をおこなった場合、車両を損傷するおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■ LED ライトについて

車幅灯、サイド方向指示兼非常点滅灯、制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯、番号灯は数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 エンジンルーム（ヒューズボックス B）：エンジンルームカバーを取りはずす。
→P. 247

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元



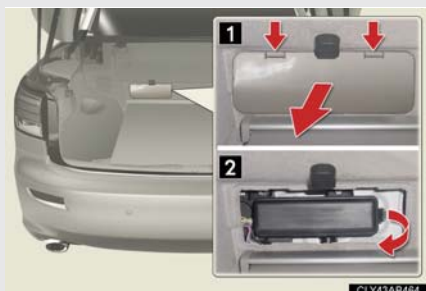
カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元



カバーを取りはずす

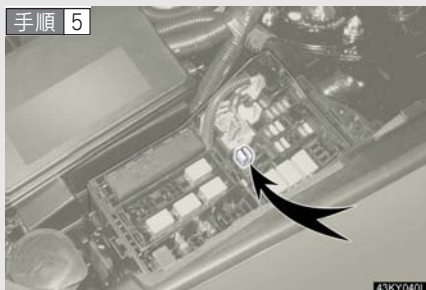
▶ トランク



カバーを取りはずす

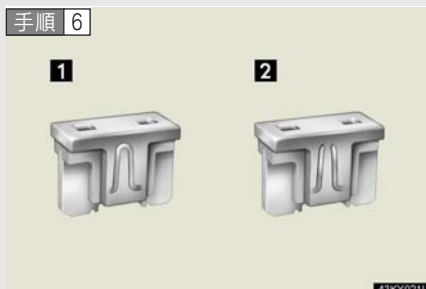
手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→ P. 260) で確認する。

手順 5



ヒューズははずしでヒューズを引き抜く。

手順 6

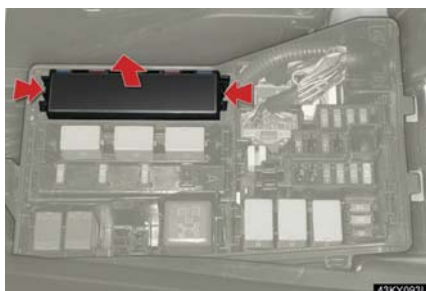


ヒューズが切れていないか点検する。

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

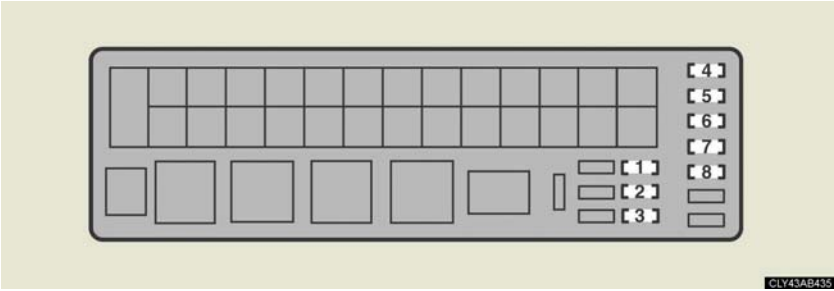
フロントコントローラを取り出す（ヒューズボックス B）



左右のツメを押しながら引き上げる。

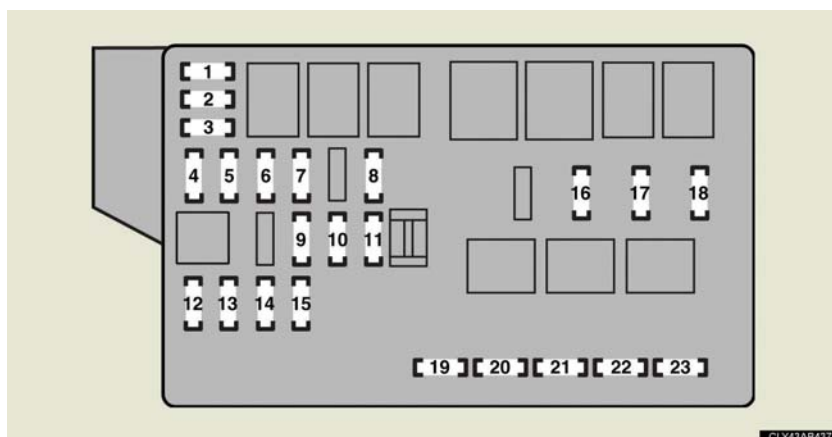
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	CDS	10 A	電源
2	DOME	10 A	室内灯、メーター、ドアミラー照明
3	MPX-B	10 A	ヘッドライト、フロントフォグライト、車幅灯、番号灯、ウォッシャー、パワードアロックシステム、パワーウインドウ、パワーシート、パワーステアリング、メーター、スマートエントリー&スタートシステム、電動ミラー、メタルトップ、時計、エアコン、電動チルト&テレスコピックステアリング
4	RAD NO.1	30 A	オーディオ
5	D/C CUT	20 A	DOME、MPX-B
6	RAD NO.2	30 A	オーディオ
7	IG2 MAIN	20 A	IG2、IGN、GAUGE
8	TURN-HAZ	15 A	非常点滅灯、方向指示灯

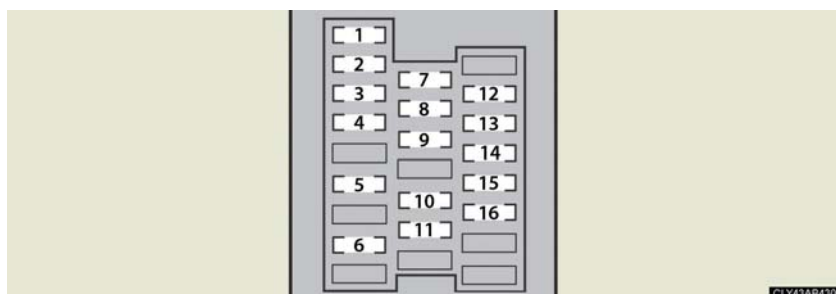
■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	SPARE	30 A	予備ヒューズ
2	SPARE	25 A	予備ヒューズ
3	SPARE	10 A	予備ヒューズ
4	FR CTRL-B	25 A	ヘッドライト（ハイビーム）、HORN
5	A/F	15 A	排気システム
6	ETCS	10 A	EFI システム
7	TEL	10 A	TEL
8	STR LOCK	25 A	ステアリングロック
9	A/C COMP	7.5 A	エアコン
10	DEICER	25 A	フロントワイパーデアイサー
11	FR CTRL-AM	30 A	ヘッドライト、フロントフォグライト、車幅灯、ウォッシャー
12	IG2	10 A	スマートエントリー&スタートシステム、EFI システム
13	EFI NO.2	10 A	EFI システム、排気システム
14	H-LP R LWR	15 A	右側ヘッドライト（ロービーム）
15	H-LP L LWR	15 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
16	F/PMP	25 A	フューエルシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	EFI	25 A	EFI システム
18	INJ	20 A	EFI システム
19	H-LP UPR	20 A	ヘッドライト（ハイビーム）
20	HORN	10 A	ホーン
21	WASHER	20 A	ウォッシャー
22	FR TAIL	10 A	車幅灯、番号灯
23	FR FOG	15 A	フロントフォグライト

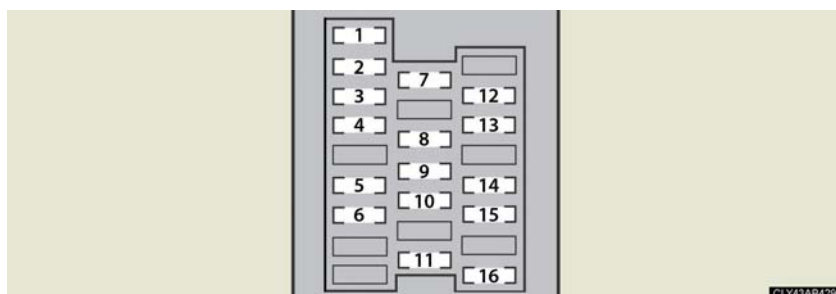
■ 運転席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR P/SEAT RH	30 A	パワーシート
2	DOOR DL	15 A	——
3	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
4	STOP SW	7.5 A	制動灯、EFI システム、VDIM、シフトロックシステム
5	TI & TE	20 A	電動チルト&テレスコピックステアリング、パワードアロックシステム
6	RAD NO.3	10 A	オーディオ
7	GAUGE	7.5 A	メーター
8	IGN	10 A	SRS エアバッグシステム、ステアリングロック、EFI システム、制動灯、スマートエントリー&スタートシステム
9	ACC	7.5 A	時計、エアコン、オーディオ、ナビゲーションシステム、電動ミラー、スマートエントリー&スタートシステム、グローブボックスライト、コンソールボックスライト、バックガイドモニター、ETC
10	CIG	15 A	シガレットライター
11	PWR OUTLET	15 A	アクセサリソケット
12	FR DOOR RH	20 A	パワーウィンドウ、電動ミラー、パワードアロックシステム
13	AM2	7.5 A	スタートシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	RH-IG	7.5 A	オートマチックトランスミッション、シートヒーター&ベンチレーター、クリアランスソナー、フロントワイパーデアイサー、テンションリデューサー、プラズマクラスター [®]
15	FR S/HTR RH	15 A	シートヒーター&ベンチレーター
16	ECU-IG RH	10 A	パワーシート、電動ミラー、VDIM、エアコン、プリクラッシュシートベルト、電動チルト&テレスコピックステアリング、パワーウィンドウ、ナビゲーションシステム、VSC、時計、メタルトップ、ヘッドライト、フロントフォグライト、車幅灯、番号灯、ウォッシャー、リヤフォグライト

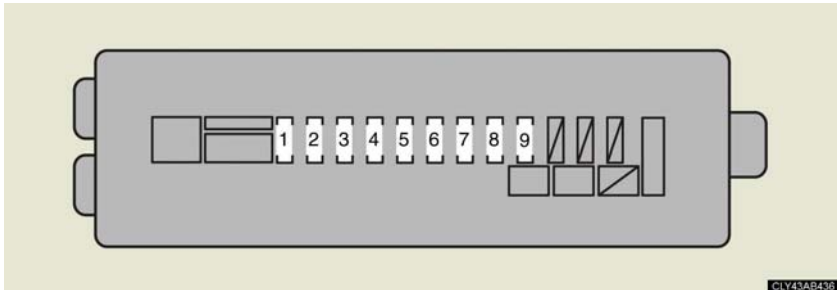
■ 助手席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR P/SEAT LH	30 A	パワーシート
2	A/C	7.5 A	エアコン
3	MIR HTR	15 A	ミラーヒーター
4	TV NO.1	10 A	ディスプレイ
5	FUEL OPN	10 A	給油口オープナー
6	TV NO.2	7.5 A	ETC
7	TAIL	10 A	尾灯、番号灯、車幅灯
8	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、エアコン、ディスプレイ、時計、シガレットライター、パワーステアリング、メタルトップ、ECT、TRC、シートヒーター&ベンチレーター、トランクオープナー、電動ミラー、シフト照明、オーディオ、インストルメントパネル照度調整
9	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
10	ECU-IG LH	10 A	エアコン、クルーズコントロール、パワーステアリング、電動ミラー、雨滴感知センサー、シフトロックシステム、タイヤ空気圧警報システム
11	FR S/HTR LH	15 A	シートヒーター&ベンチレーター、エアコン
12	FR DOOR LH	20 A	パワーウィンドウ、電動ミラー
13	SECURITY	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	H-LP LVL	7.5 A	ヘッドライトオートレベリングシステム
15	LH-IG	10 A	オルタネーター、リヤウインドウデフォグガー、電動クーリングファン、非常点滅灯、方向指示灯、後退灯、制動灯、ミラーヒーター、クリアランスソナー、排気システム、スマートエントリー&スタートシステム、テンションリデューサー
16	FR WIP	30 A	フロントワイパー

■ トランク



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ROOF RH	30 A	メタルトップ
2	ROOF LH	30 A	メタルトップ
3	LGG RH	30 A	メタルトップ
4	LGG LH	30 A	メタルトップ
5	LGG LCK RH	30 A	メタルトップ
6	LGG LCK LH	30 A	メタルトップ
7	P-TRAY MAIN	30 A	メタルトップ
8	P-TRAY SIDE	7.5 A	メタルトップ
9	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 249)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換の仕方

手順 1



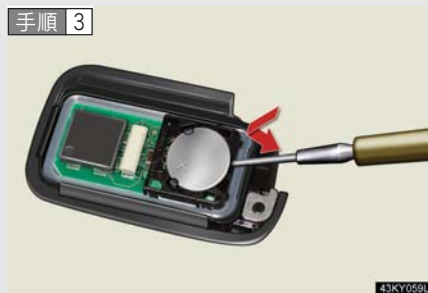
メカニカルキーを抜く。

手順 2



カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

 知識**■ 電子キーの電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

 警告**■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する。

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液のみを使う

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。

水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

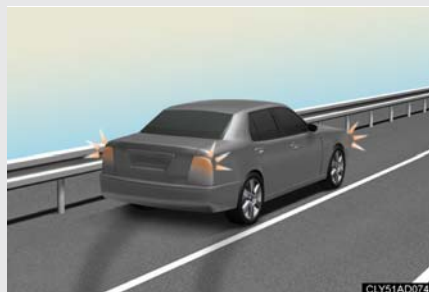
故障したときは	272
非常点滅灯	273
発炎筒	274
けん引について	276

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	280
警告メッセージが 表示されたときは	286
パンクしたときは (スベアタイヤ搭載車)	297
パンクしたときは (パンク 修理キット付き車)	306
パンクしたときは (ランフラットタイヤ)	318
エンジンがかからない ときは	320
シフトレバーが シフトできないときは	322
キーを無くしたときは	323
電子キーが正常に 働かないときは	324
バッテリーがあがった ときは	328
オーバーヒートした ときは	331
スタックしたときは	333
メタルトップが 閉まらないときは	334
車両を緊急停止するには	344

5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。



非常点滅灯（→ P. 273）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 274）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

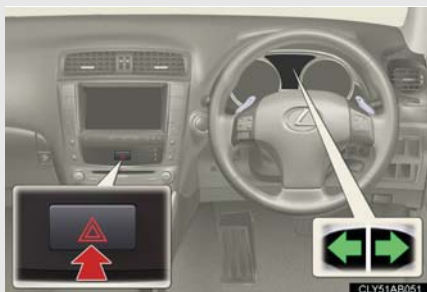
■ 停止表示板・停止表示灯について



- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、レクサス販売店で購入することができます。

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押すと
消灯します。



注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

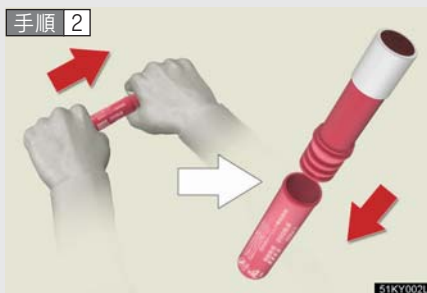
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

手順 1



助手席足元の発炎筒を取り出す。

手順 2



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

手順 3



先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる。

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

**警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

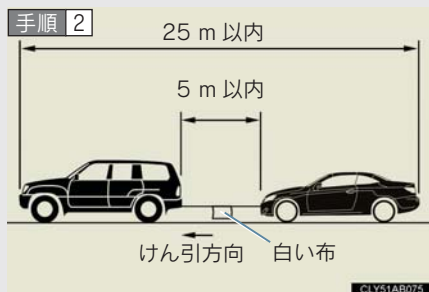
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

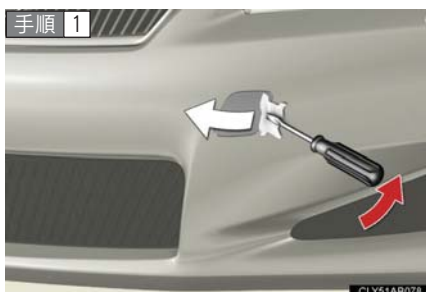
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

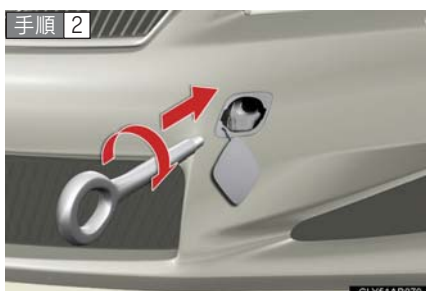
けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

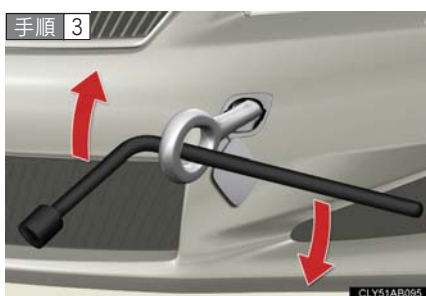


マイナスドライバーを使ってふたをはずします。

車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。



けん引フックを穴に差しこみ軽くしめます。



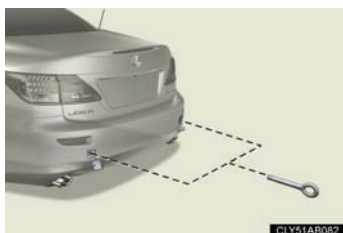
ホイールナットレンチを使い確実に取り付けます。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する



リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの収納位置

→P. 297

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

しっかりと取り付けてください。

さもないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

 警告**■けん引中の運転について**

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

 注意**■車両の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で自車より重い他車やポート(トレーラー)などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

- レッカー車でけん引してください。
- レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ倍力装置系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

→P. 289

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 (→P. 182) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点滅します。 (→P. 183) ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。 (→P. 289)
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める。
	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 11 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	タイヤ空気圧警告灯	
	タイヤ空気圧の低下	タイヤ空気圧を調整する
	タイヤ空気圧警報システムの異常 (約 1 分間点滅後点灯したとき)	→ P. 284
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→ P. 286

※1 半ドア走行時警告ブザー：

→P. 286

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ メタルトップ半開警告ブザーについて

メタルトップが全開または全開でないまま走行するとブザーが鳴ります。安全な場所に停車して、メタルトップの開閉作業を完了させてください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯したときは

▶ ランフラットタイヤ装着車

- 手順 1** すみやかに車速を 80km/h 以下にし、安全な場所で停車する。
- 手順 2** タイヤ空気圧を点検・調整する。
- 手順 3** すぐに調整できないときや、調整後、再び点灯するときは最寄りのレクサス販売店まで低速で走行する。

▶ スペアタイヤ装着車

- 手順 1** すみやかに安全な場所へ停車し、タイヤ空気圧を点検・調整する。
- 調整後、再び点灯するときは、パンクの可能性があります。
- 手順 2** パンクしている場合は、応急用（スペア）タイヤに交換する。（→ P. 297）
- 応急用（スペア）タイヤ装着時は、タイヤ空気圧警告灯が点灯したままになります。

▶ パンク修理キット装着車

手順 1 すみやかに安全な場所へ停車し、タイヤ空気圧を点検・調整する。

調整後、再び点灯するときは、パンクの可能性があります。

手順 2 パンクしている場合は、パンク修理キットで修理する。

パンク修理キットを使用した場合、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しなくなる可能性があります。

パンク修理キットを使用したときは、タイヤ交換と一緒にタイヤ空気圧警報バルブ / 送信機も交換してください。

■ タイヤ空気圧警告灯について

気温によるタイヤ空気圧の変化や、自然にタイヤ空気圧が減少した場合にも点灯します。

タイヤに異常がないときは、指定タイヤ空気圧に調整すればタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムについて

以下のような条件では、システムは正しく作動しません。

(状態が正常にもどると、タイヤ空気圧警報システムは正常に作動します)

- タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用している場合
- タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていない場合
- サテライトスイッチでのタイヤ選択が誤っている場合
- タイヤ空気圧が異常に高い場合 (500kPa 以上)

以下のような条件では、システムは正しく作動しない可能性があります。

(状態が正常にもどると、タイヤ空気圧警報システムは正常に作動します)

- 近くに同じような無線周波数を使っている施設、または電子機器がある場合
- 車内で同じような無線周波数を使っている電子機器を使用している場合
- 電波に障害を与えるようなフィルムをガラスに貼ってある場合
- 車両 (特にホイール、ホイールハウスの周り) に多くの雪、氷などがついている場合
- 純正のホイールを使用していない場合
- タイヤチェーンを装着している場合
- パンク修理キットを使用している場合

 警告**■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは**

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯したときは

- 急な操作、急ブレーキをしないでください。
重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ランフラットタイヤ装着車以外はただちに減速してください。
ランフラットタイヤ装着車は、状況が許す最も適当な速度まで減速してください。
(速度 80km/h 以下、距離 160km 以内)

■ タイヤの破裂や急なエア漏れの際は

タイヤ空気圧警報システムはすぐに作動しないことがあります。

 注意**■ タイヤ交換時の注意**

タイヤの種類によってはタイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

■ 空気圧が低下した状態で走行するとき（ランフラットタイヤ装着車）

- タイヤ空気圧が低下した状態では、タイヤのクッション性能が劣るため、路面の穴、縁石の乗り上げなどには注意してください。車体を損傷するおそれがあります。
- タイヤ空気圧が低下すると、車高が低くなるため、障害物は避け、荒れた路面、未舗装路、道路の凸凹などはゆっくり通過してください。また自動洗車機にかけると、車体を損傷するおそれがあります。

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

タイヤ空気圧警告灯の点灯および約 1 分間点滅後の点灯は、初期化スイッチ操作（→ P. 235）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。



1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

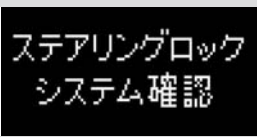
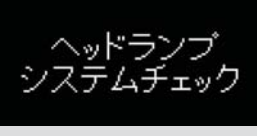
ただちに停車してください。

ブザーとともにメッセージが表示されます。以下の表示は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

表示メッセージ	表示内容
 (点滅)	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。

ただちに点検を受けてください。

ブザーとともにメッセージが表示されます。以下の表示は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示メッセージ	表示内容
  (点減)	ステアリングロックシステムの異常
  	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*の異常
 	ヘッドライトオートレベリングシステムの異常
 	クリアランスソナー*の異常 異常のあるソナーが点減し表示されます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

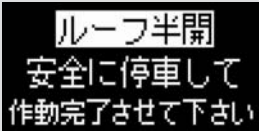
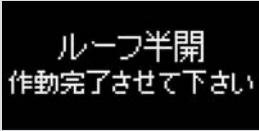
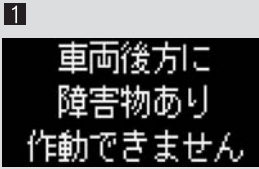
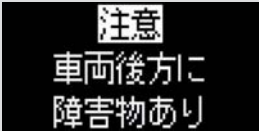
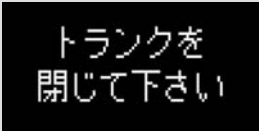
表示メッセージ	表示内容
クルーズ システムチェック CRUISE (点滅) 	レーダークルーズコントロールシステム*の異常 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
メタルトップ システムチェック 	メタルトップシステムの異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

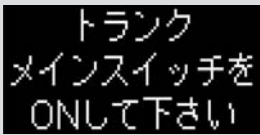
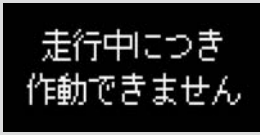
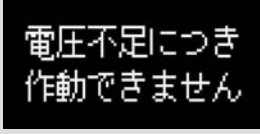
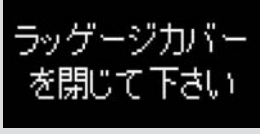
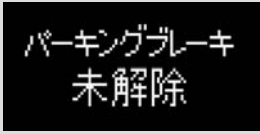
ただちに処置してください。

ブザーとともにメッセージが表示されます。以下のメッセージはそれぞれの対処方法にしたがって処置し、メッセージが消灯するのを確認してください。

表示メッセージ	表示内容	対処方法
 	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときには  が点滅しブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときには  が点滅しブザーが鳴ります。	ボンネットを閉める
	トランクが確実に閉まっていない トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときには  が点滅しブザーが鳴ります。	トランクを閉める

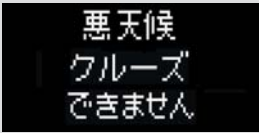
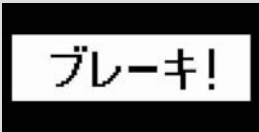
表示メッセージ	表示内容	対処方法
	メタルトップの開閉作動が完了していない状態のまま走行した 車速が 3km/h を超えた時には  が点滅し、ブザーが鳴ります。	安全に停車して開閉作動を完了させる (→ P. 75)
  (点滅)	メタルトップの開閉作動が完了していない状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	メタルトップの開閉作動を完了させる (→ P. 75)
 	・クリアランスソナー*が車両の後方に障害物を検知している状態でルーフスイッチを操作した ・メタルトップ開閉中、クリアランスソナー*が車両後方に障害物を検知して作動が停止した  のメッセージが表示されたから 2 秒以内にルーフスイッチを再操作したとき、  のメッセージが表示されます。	(→ P. 79)
	トランクが開いた状態でルーフスイッチを操作した	トランクを閉める

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示メッセージ	表示内容	対処方法
	トランクメインスイッチが OFF の状態でルーフスイ ッチを操作した	トランクメインスイッチを ON にする (→ P. 43)
	走行中にルーフスイッチを 操作した	(→ P. 75)
	電圧が不足している時に ルーフスイッチを操作した	エンジンを始動させる
	ラグゲージカバーがメタル トップ作動許可位置に装着 されていないときにルーフ スイッチを操作した	(→ P. 76)
	パーキングブレーキが解除 されていない パーキングブレーキをか けたまま、車速が 5 km/h を超えたときには  が点滅しブザー が鳴ります。	パーキングブレーキを解除 する
	ウォッシャー液が残りわず か	ウォッシャー液を補充する

表示メッセージ	表示内容	対処方法
エンジンオイル 不足 	エンジンオイルの不足	エンジンオイル量を点検し、 オイルを補給する 傾斜路などに停車したと き表示される場合があり ます。水平な路面に移動 し、警告メッセージが表 示されるか確認ください。
PCS 現在使用 できません PCS (点滅)	PCS（プリクラッシュセー フティシステム）*が現在 機能していないことを示す	・ グリルまたはセンサーの 汚れを取りのぞく ・ プリクラッシュセーフ ティシステムが通常温度 になるまでしばらく待つ。
 ソナー 汚れ 	クリアランスソナー*のセ ンサー部分の汚れ、氷など の付着	汚れおよび氷などを取りの ぞく
レーダー汚れ 清掃必要 CRUISE (点滅) 	レーダークルーズコント ロール*のセンサー部分の 汚れ、氷などの付着	汚れおよび氷などを取りの ぞく

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示メッセージ	表示内容	対処方法
  (点滅)	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可	・走行モードを通常走行またはパワーモードにかえる ・ワイパーを止めるかオートまたは低速作動にかえる
 (点滅)	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性がある	ブレーキを踏む
  (点滅)	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す	ブレーキで減速する

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

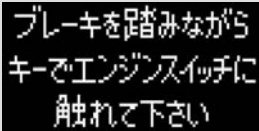
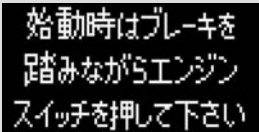
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法にしたがって処置し、表示メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	表示メッセージ	表示内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません (10 秒間点灯)  (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした。	電子キーを携帯してエンジンをかけてください。※
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがPの状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	表示メッセージ	表示内容	対処方法
1 回	連続音	Pレンジに 入れて下さい キーが 見つかりません (交互に表示)  (点滅)	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがP以外の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか  (点滅)	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する。 (→P. 268)
1 回	なし	エンジン始動時 ブレーキを 踏んで下さい	“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFの状態ではいずれかのドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードに2回した	ブレーキを踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押す
なし	なし	ステアリングロック 未解除  (点滅)	“エンジンスタートストップ”スイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押す

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	表示メッセージ	表示内容	対処方法
1 回	なし		電子キーが正常に 作動していない	→P. 326
なし	なし			

※ 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 30)

パンクしたときは（スペアタイヤ搭載車）

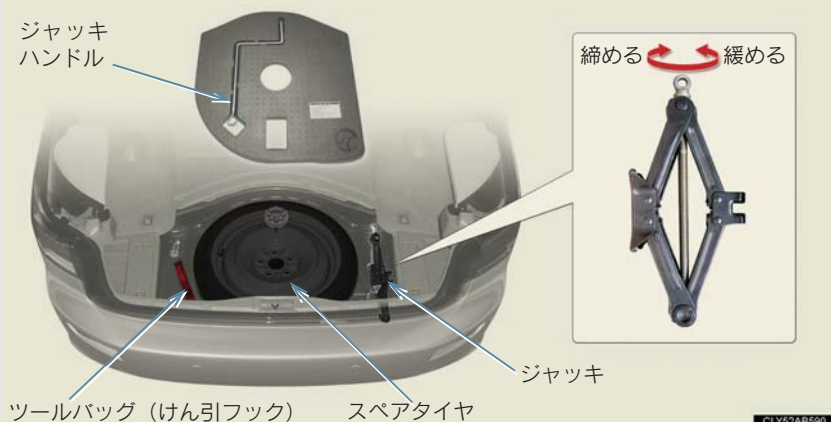
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。

（タイヤについての詳しい説明は P. 233 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

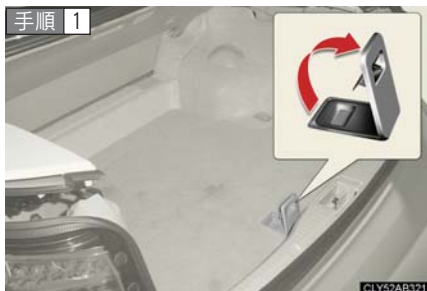
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- メタルトップを閉める（→P. 75）
- ラグゲージカバーを収納する（→P. 76）
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置



応急用タイヤの取り出し方

手順 1



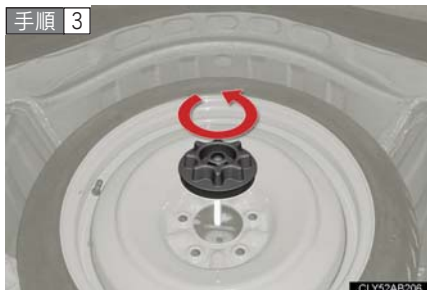
ラゲージマットを持ち上げる

手順 2



ラゲージマットのフックをかける

手順 3



留め具を取りはずす

パンクしたタイヤの交換

手順 1

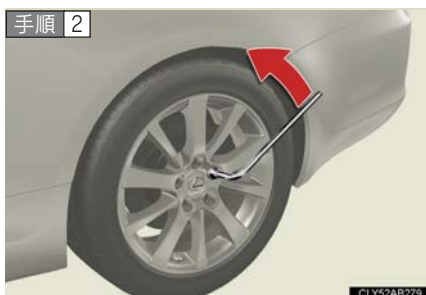


輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

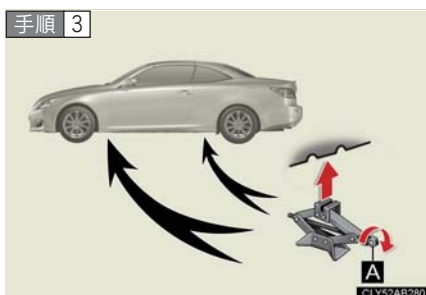
※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2



ナットを少し（約 1 回転）緩める。

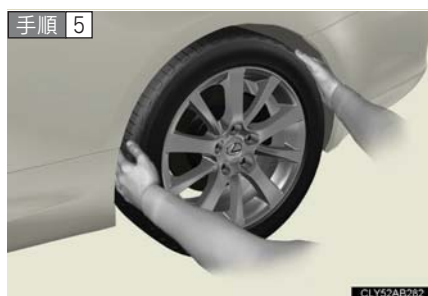
手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にする。

スペアタイヤの取り付け

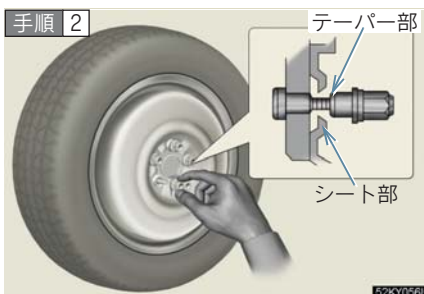
手順 1



ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

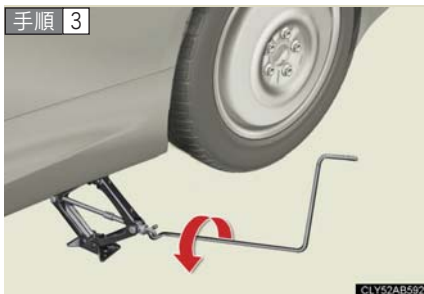
手順 2



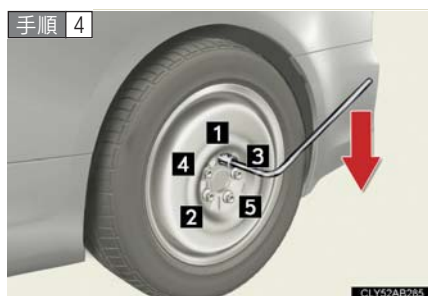
スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。

手順 3



車体を下げる。



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 350)

■ 雪道・凍結路で後輪がパンクしたときは

- 手順 1 前輪を応急用タイヤと交換する
- 手順 2 パンクした後輪をはずした前輪と交換する
- 手順 3 タイヤチェーンを後輪に装着する

警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない

⚠ 警告

- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットをしめる
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける。



警告

■ **応急用タイヤを使用するときは**

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換ください
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

■ **応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS & ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- EPS
- VDIM
- ナビゲーションシステム
- レーダークルーズコントロール*
- クルーズコントロール*
- PCS *

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（パンク修理キット付き車）

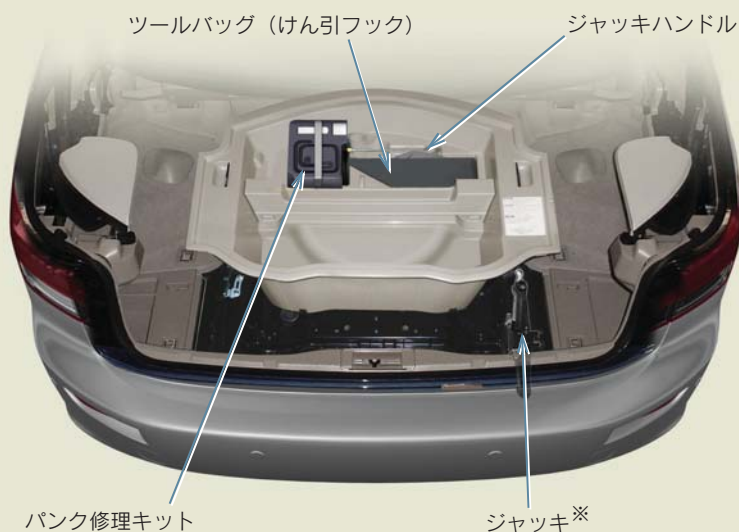
タイヤがパンクしたときにパンク修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度のパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）

パンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、販売店にご相談ください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- メタルトップを閉める（→P. 75）
- ラグゲージカバーを収納する（→P. 76）
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

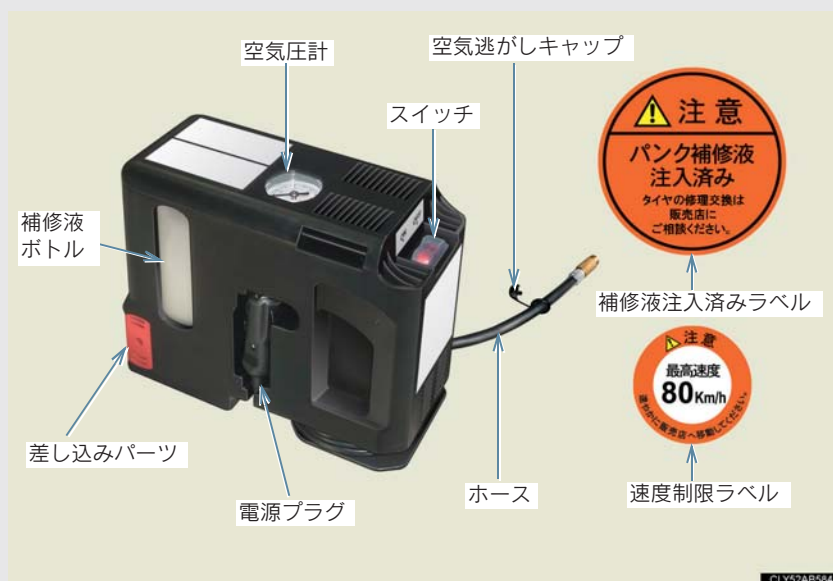
■ パンク修理キット、工具およびジャッキ位置



※：ジャッキの使い方（→P. 299）

CLY52AB331

■ パンク修理キットの内容、各部名称



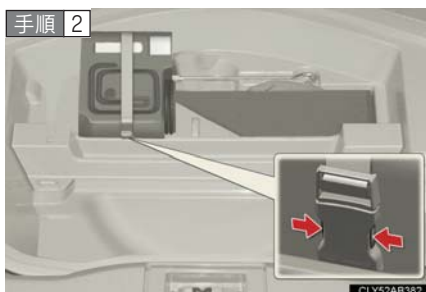
パンク修理キットの取り出し方

手順 1



ハンドルを起し、ラッゲージマットを折り曲げる。(→P. 220)

手順 2



バックルをはずしてパンク修理キットを取り出す。

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。

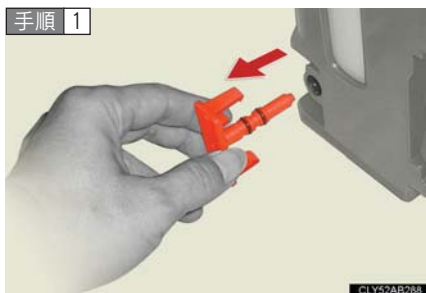


釘やねじなどが刺さっている場合のみタイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さったクギやネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液が漏れないように、パンク箇所が分かっている場合は、タイヤのパンク箇所が上になるように車を移動してください。

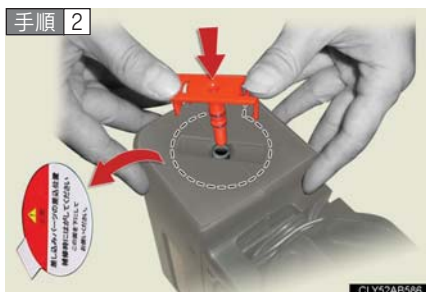
応急修理するときは

手順 1



キットから差し込みパーツを引き抜く。

手順 2



キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込む。

“パチッ”と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

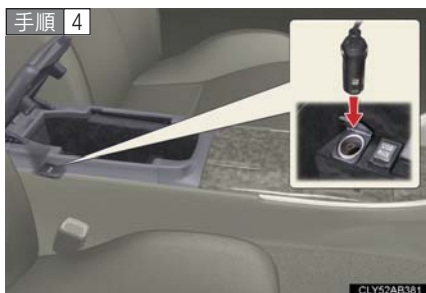
手順 3



キットの向きを元にもどし、スイッチがOFFであることを確認する。

必ず立ててご使用ください。

手順 4



キットの電源プラグをアクセサリソケットに差し込む。(→P. 212)



バルブからバルブキャップを取りはずす。

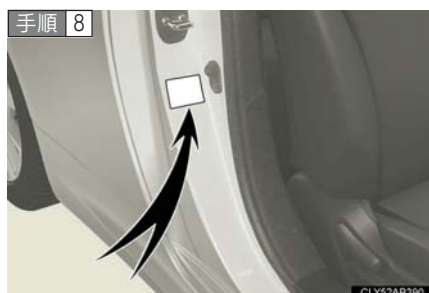


ホースから空気逃がしキャップを取りはずす。



ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する。

ホース先端を時計まわりに回してしっかりと最後までねじ込む。



タイヤの指定空気圧を確認する。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 350)

手順 9



エンジンを始動する。

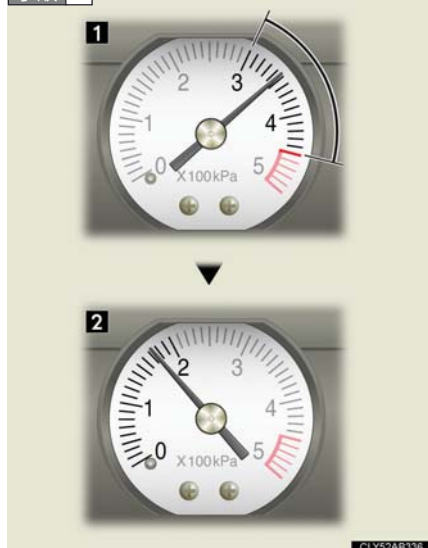
手順 10



キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する。

必ず立ててご使用ください。

手順 11



空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する。

1 スイッチ ON 直後はパンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300 ～ 450kPa まで上昇します。

2 1 分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填してください。

- ・ 空気圧は、キットのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認を繰り返してください。
- ・ 空気圧計の針が赤いゾーン (450kPa 以上) に達した場合、タイヤまたはキットに異常がある可能性があります。直ちに修理を中止してください。
- ・ 10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。販売店にご連絡ください。
- ・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 315)

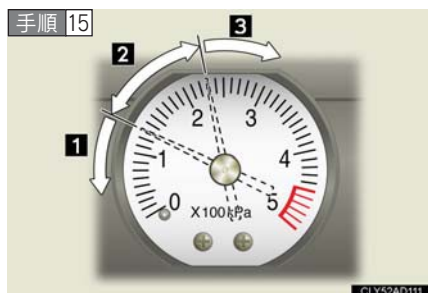
手順 12 バルブからキットのホースを取りはずし、アクセサリソケットから電源プラグを取りはずす。

手順 13 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、直ちに約 5 km 走行する。

手順 14



走行後、再度キットを接続する。



キットのスイッチを数秒間ONにし、OFF にしてから空気圧を確認する。

- 1 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理できません。販売店にご連絡ください。
- 2 空気圧が 130 kPa 以上、指定空気圧未満の場合： **手順 16** へ
- 3 空気圧が指定空気圧の場合：
手順 17 へ

手順 16 キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後に改めて **手順 14** から実施する。



キットを片付けて、付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける。

急ブレーキ、急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転して販売店へ行きます。タイヤの修理・交換については販売店にご相談ください。



知識

■以下のときは、パンク修理キットでは応急修理できません。販売店にご連絡ください。

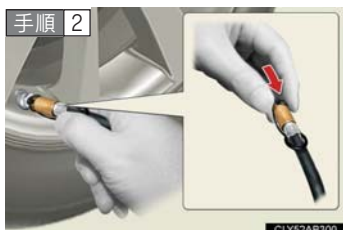
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側壁の亀裂や損傷によりタイヤがパンクしているとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤ溝に 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限がきれる前に交換してください。交換については販売店にご相談ください。
- タイヤ 1 本を 1 回、応急修理できます。使用したパンク補修液のボトルと付属品の交換は販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。
- キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。
- キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

■ 空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからホースを取りはずす。



ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く。

手順 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する。

手順 4 キットのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する。
(→P. 350)

指定空気圧より低いときは、再度キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のバルブについて

- パンク修理キットを使用したときは、タイヤ空気圧バルブ／送信機を新品に交換してください。
- パンク修理キットを使用したときは、タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

⚠ 警告

■ バンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。



警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させる。
- ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続する。
- ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるのでキット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにキットのスイッチを切り、修理を中止してください。
- キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
- キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・再度空気圧を測ってください。130kPa以下の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急修理をするときは

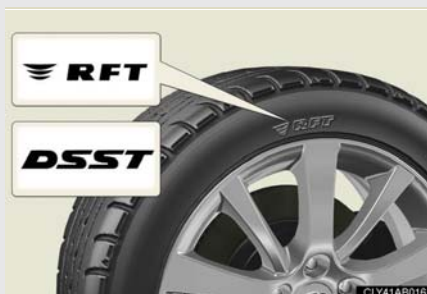
- タイヤ溝に刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理をおこなってください。
取り除いてしまうと、パンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■キットについて

- キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- キットは指定の位置に格納し、お子様が誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（ランフラットタイヤ）

ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。ランフラットタイヤ装着車には、応急用タイヤは装着されていません。（タイヤについての詳しい説明は P. 234 をご覧ください。）



ランフラットタイヤがパンクしたときは、以下の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 80km/h 以下で走行する
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- 160km 以上走行しない

 知識

■ 高温時などは

160km まで走行できない場合があります。

■ ランフラットタイヤについて

→P. 234

 注意**■ タイヤを交換するときは**

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、タイヤ空気圧警報用のバルブと送信機に影響が出るおそれがあります。

■ 段差を乗り越えるときは

タイヤがパンクしているときは、通常に比べ車高が低くなっているので、ご注意ください。

■ 液体のパンク補修剤を使用したときは

パンク修理キットを使用すると、タイヤ空気圧バルブ / 送信機が正常に作動しなくなる可能性があります。

パンク修理キットを使用したときは、タイヤ交換と一緒にタイヤ空気圧バルブ / 送信機も交換してください。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機と接触し損傷するおそれがあるので、自動洗車機を使用しないでください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 127）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ **スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合**

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 127）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモバイザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 88）

■ **スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 328）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ **スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合**

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 328）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の仕方がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
- 手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。
- 手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードにする。
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “エンジンスタートストップ” スイッチを約 15 秒以上押しつづける。

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→ P. 22)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 30）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けること、エンジンを始動することができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。（→P. 23）

▶ ドア



運転席側のドアハンドルのカバーを取りはずす



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

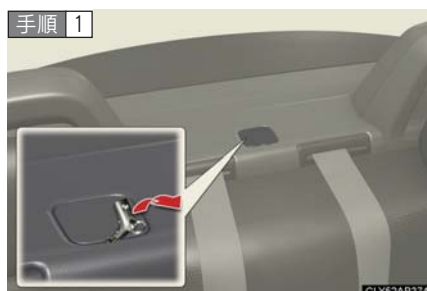


操作が終わったらカバーを取り付ける

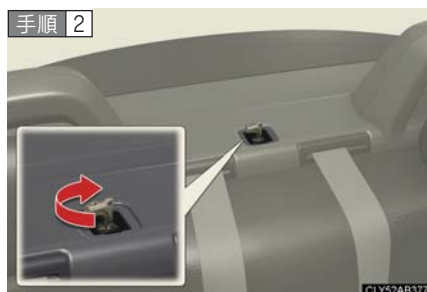
カバーの上側にあるツメを車両上側のツメにかけ、カバー下側を押して取り付ける

ツメが正しくかかっていないと、カバーが脱落する原因になるため、取り付け後はしっかり固定されていることを確認してください。

▶ トランク



メカニカルキーを使ってふたをはずす



メカニカルキーを時計まわりに回して開ける

モードの切り替え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。

手順 2



電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジンスタートストップ”スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジンスタートストップ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→P. 127)

エンジン始動：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店に連絡してください。

 知識**■ エンジンの停止の仕方**

通常のエンジン停止の仕方と同様、シフトレバーを P にして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

■ 電池交換について

前記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 268)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。(→P. 89)

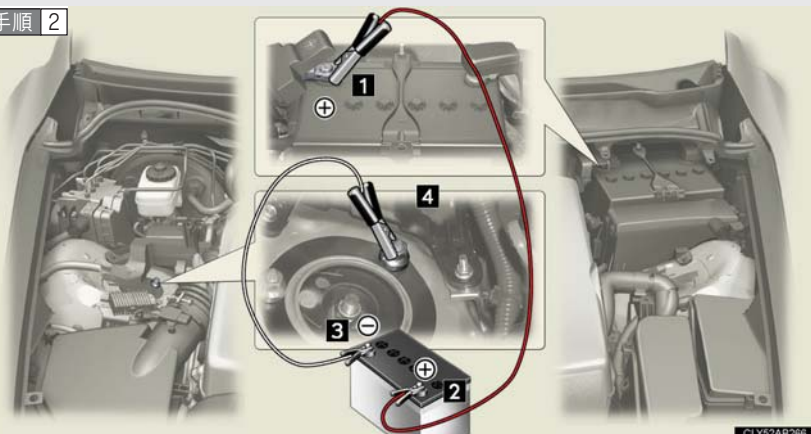
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1 エンジンルームカバーをはずします。(→P. 247)

手順 2



バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ。
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにし、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。
エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーション等）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）



警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診断を受ける
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない



注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

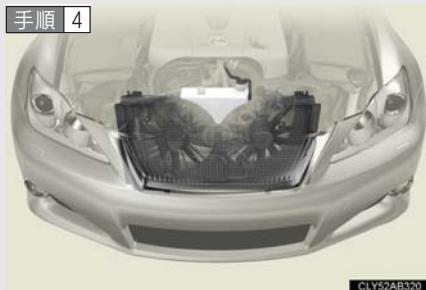
ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、レクサス販売店に連絡する。

手順 4



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

エンジンルームカバーを取りはずすには（→P. 247）

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る



警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジン及びラジエーターが熱いうちはクーラントリザーバーキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。



注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 エンジン进行を止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジン进行を再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れてパーキングブレーキを解除し、注意しながらアクセルを踏む

TRC、VSC の作動で脱出ににくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 176)

警告

■ 脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・物または人との衝突を避けるため周囲に何もなことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

メタルトップが閉まらないときは

ルーフスイッチを操作してもメタルトップが閉まらないときは、すべての作動条件が成立しているかを確認してください。(→P. 80)

作動条件が成立しているのに閉まらないときは、故障が考えられますので、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

また一時的な対処として、次の手順で手動により閉めることができます。

作業時にご留意いただきたいこと

- この作業は2人いなければおこなうことができません。
- 大きな力を加える作業や部品を取り外す作業をおこなうときに、お車に損傷を与える危険性があります。作業に不安がある方は、レクサス販売店にご連絡ください。
- 手の入りにくい場所での作業をおこなうときは、手袋などで手を保護してください。
- “エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして作業をおこなってください。

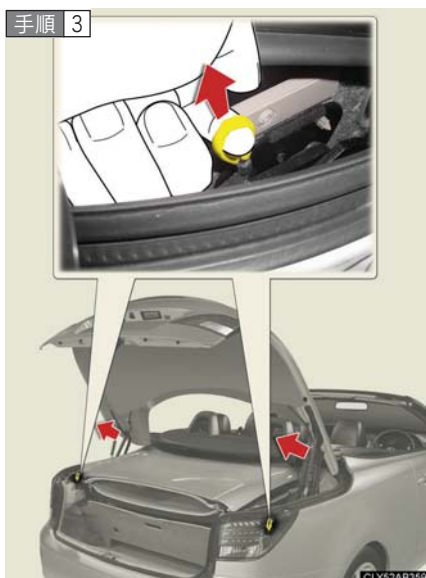
手順 1 トランクを解錠する (→P. 43)

手順 2



トランクを完全に開ける

手順 3



トランクの両側についている黄色い輪を引きながら、トランクリッドの前側を持ち上げる

手順 4

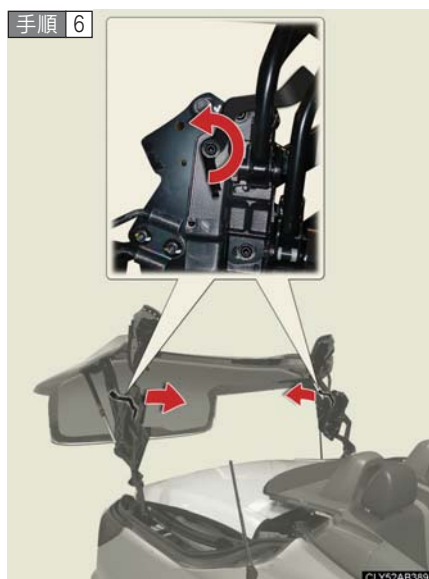


イラストと同じ部分を持ち、トランクリッドを車両後方へ持ち上げ、止まる位置まで動かす

イラスト以外の部分を持って作業すると、部品が破損したり、手を挟んでけがをしたりすることがあります。



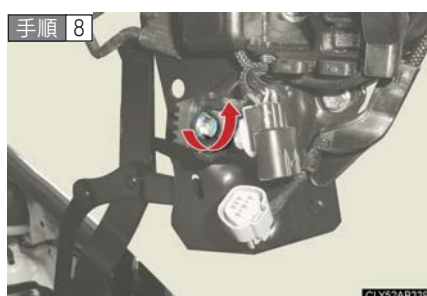
トランクリッドヒンジの両側にある
スクリューをそれぞれ2本はずし
て、カバーをはずす



固定ボルトをはずして、ブラケット
をはずす



トランクリッドヒンジの両側にある
コネクターをはずす

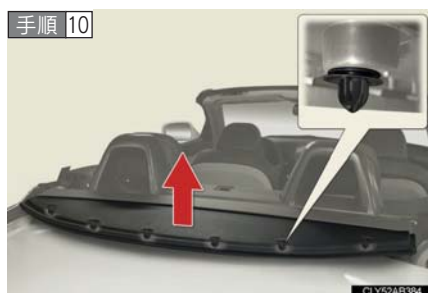


固定ボルトをはずして、コネクター
の取り付け部をはずす

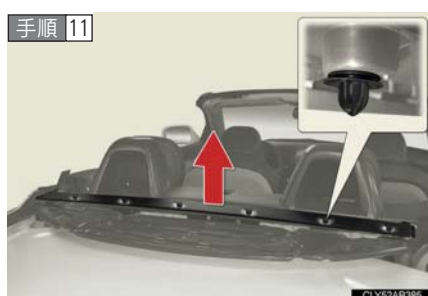


トランクリッドヒンジの両側にある
固定ボルトをそれぞれ2本はずして、
サイドパッケージトレイをはずす

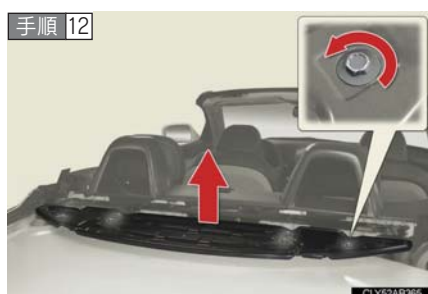
サイドパッケージトレイが落下するお
それがあるため、手で支えながら作業を
行ってください。



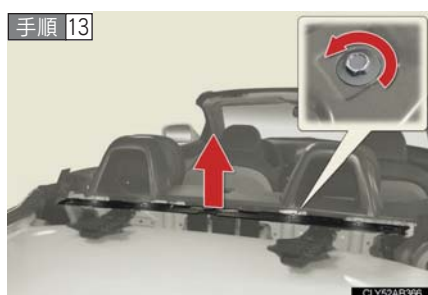
後ろ側のボードをはずす



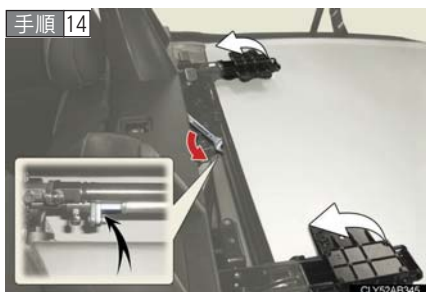
前側のボードをはずす



後ろ側のプレートの固定ボルトを 6 本はずして、後ろ側のプレートははずす

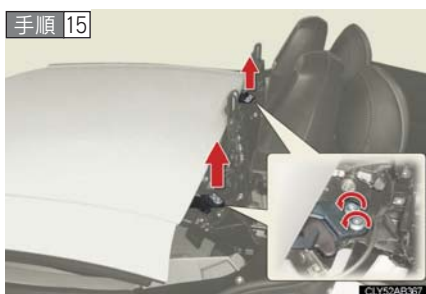


前側のプレートの固定ボルトを 4 本はずして、前側のプレートははずす



スパナを使い、シルバーのロッドの車両右側にある、六角部分を止まるまで回す

プレートの取り付け部が立ち上がります。



六角レンチを使い、車両の両側にある固定ボルトをそれぞれ2本ずつはずして、左右のロックをとりはずす

車両左側のロックはとりはずせますが、車両右側のロックにはワイヤーハーネスがついているため完全にとりはずすことはできません。



イラストと同じ部分を持ち、ルーフパネルをゆっくりと持ち上げ、車両の前方に動かす

イラスト以外の部分を持って作業すると、部品が破損したり、手を挟んでけがをしたりすることがあります。

ルーフパネルが自重で落下しはじめたら手をはなしてください。

ルーフパネルはわずかに開いた状態にとまります。



ルーフパネルの前側にあるカバーをはずす



六角レンチを差しこみ、反時計回りに止まるまでまわして、ルーフパネルのロックをはずす

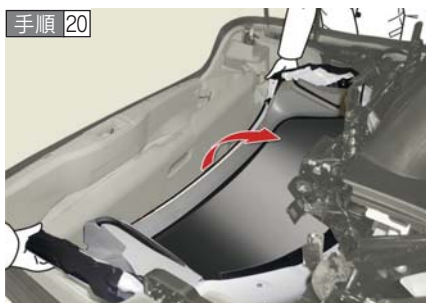
ルーフパネルが完全に閉じます。
ロックをはずしたときに、手を挟まないように注意してください。



六角レンチを時計回りに、止まるまでまわして、ルーフパネルをロックする

止まったらそれ以上まわさないでください。

手順 20



イラストと同じ部分を持ちリヤウインドウパネルをゆっくり持ち上げ、ルーフパネルに当たるまで閉める

リヤウインドウパネルが持ち上がらない場合は、2、3回軽く上下に動かしてから持ち上げてください。

手を挟まないように注意してください。

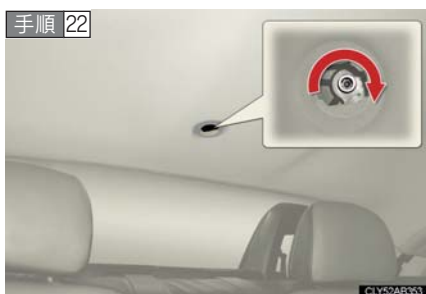
イラスト以外の部分を持って作業すると、部品が破損したり、手を挟んでけがをしたりすることがあります。

手順 21



ルーフパネルの後ろ側にあるカバーをはずす

手順 22



六角レンチを差しこみ、時計回りに、止まるまでまわして、リヤウインドウパネルとルーフパネルをロックする

止まったらそれ以上まわさないでください。

手順 23



イラストと同じ部分を持ち、トランクリッドを車両の前方に押し下げロックする

イラスト以外の部分を持って作業すると、部品が破損したり、手を挟んでけがをしたりすることがあります。



手順 24



トランクリッドを閉める

 知識

■ 手動操作でとりはずした部品について

作業中にははずした部品は、紛失しないように保管し、車両とともにレクサス販売店に持ち込んでください。

 警告

■ 手動でメタルトップを閉じるときは

以下のことをお守りください。

- 安全で平らな場所に車をとめてください。
- パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを P に入れてください。
- 車内に人がいるときは作業を行わないでください。
- 風が強いときは、作業を行わないでください。
- エンジンスタートストップスイッチを OFF にして作業を行ってください。
- 可動部に手を挟まないよう注意してください。
- 作業の中には、素手で行うとけがをするおそれがある作業があります。手袋や布などで手を保護しておこなってください。

 注意

■ メタルトップを手動で閉じた後は

- できるだけ低速で走行してください。トランクが確実に固定されていないおそれがあり、走行中に風圧で開く可能性があります。
- 作業後はできるだけ早くレクサス販売店に車両をお持ちください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4



“エンジンスターストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 346

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 353

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 355

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

燃料

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	65

エンジンオイル

銘柄※1	容量 [L]（参考値※2）	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※3 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※3 —API SM, EC, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC, SAE 10W-30	5.9	6.3

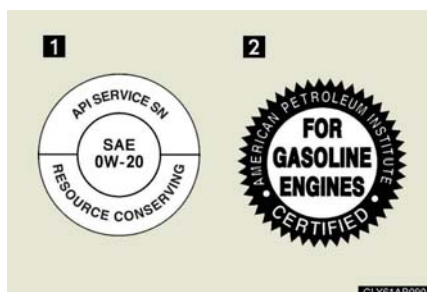
※1 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

※2 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※3 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークがついています。

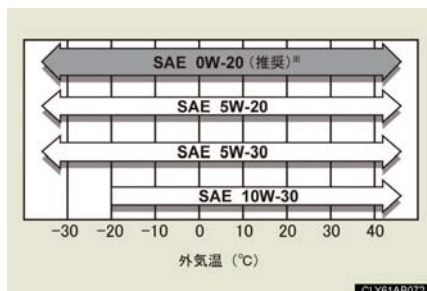


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い (数値が大きい) オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄※	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント	▶ IS350C
凍結保証温度	9.1
濃度 30% -12 ℃	▶ IS250C
濃度 50% -35 ℃	10.3

※ 使用するクーラントの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正クーラントのご使用をおすすめします。弊社純正クーラント以外を使用される場合は、弊社純正クーラントに相当する品質のものをご使用ください。

オートマチックトランスミッション

銘柄※	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	FR（後輪駆動）	▶ IS350C
		7.9
		▶ IS250C
		7.5

※ 使用するオートフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オートフルードのご使用をおすすめします。弊社純正オートフルード以外を使用される場合は、弊社純正オートフルードに相当する品質のものをご使用ください。

ディファレンシャル

銘柄※（推奨粘度）		容量 [L]（参考値）
IS350C	弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35
IS250C	弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	1.15

※ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものををご使用ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄※
弊社純正ブレーキフルード 2500H

※ 使用するブレーキフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正ブレーキフルードのご使用をおすすめします。弊社純正ブレーキフルード以外を使用される場合は、弊社純正ブレーキフルードに相当する品質のものををご使用ください。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	
IS350C	101
IS250C	104

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N (30 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチツ” という音）のことです。

■ ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
4.5

■ タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	前輪：225/45R17 90W 後輪：245/45R17 95W	17 × 8J	240 (2.4)	260 (2.6)
	前輪：225/45RF17 91W 後輪：245/45RF17 95W	17 × 8J		
	前輪：225/40R18 88Y 後輪：255/40R18 95Y	前輪： 18 × 8J 後輪： 18 × 8 1/2J		
スペア タイヤ	T125/70D17 98M または T145/70D17 106M	17 × 4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム／ハイビーム （ディスチャージバルブ）	60 35
	車幅灯	LED ※
	フロントフォグライト（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯&尾灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	LED ※
	ドアミラー照明	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車内	インテリアライト	5
	パーソナルライト	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	グローブボックスライト	LED ※
	コンソールボックスライト	LED ※
	シフト照明	LED ※
	スカッフプレート照明*	LED ※
	トランクライト	5
	バニティライト	1.5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
IS350C	GSE21	2GR-FSE (3.5L ガソリン)	FR（後輪駆動）
IS250C	GSE20	4GR-FSE (2.5L ガソリン)	FR（後輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 26)	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 37)	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	トランク解錠機能	あり	なし
	トランク解錠時の操作	1 回長押し	2 回押し
			1 回短押し
ドアロック (→P. 39)	キーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	車速感应式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ハンドル (→P. 65)	オートアウェイ& オートリターン機構	あり	なし
パワーウィンド ウ (→P. 71)	ワイヤレスリモコン連動開 機能	なし	あり
メタルトップ (→P. 79)	クリアランスソナー連動制 御	あり	なし
オートアラーム (→P. 89)	メカニカルキーを使って解 錠した時の作動	なし	あり
ライト自動点 灯・消灯システ ム (→P. 152)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの 時間	標準	長め
ワイパー& ウオッシャー (→P. 156)	停車時の間欠作動切替	あり	なし
	液だれ防止作動	あり	なし
	液だれ防止作動が働くまで の時間	車速可変	3 秒
イルミネーショ ン (→P. 194)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジンスタートストッ プ” スイッチ OFF 後の作 動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	ドアミラー照明の点灯	あり	なし

初期設定が必要な項目

以下の項目は 12V バッテリーを再接続したり、メンテナンスをおこなった後などに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
タイヤ空気圧警報システム	・走行速度、重量変化等でタイヤ空気圧を変更した場合 ・タイヤサイズを変更した場合	P. 235

さくいん

略語一覧..... 358

五十音順さくいん 359

症状別さくいん 367

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ GPS ボイスナビゲーション
- ・ オーディオ&ビジュアル
- ・ エアコン・デフォッガー
- ・ ミラーヒーター
- ・ バックガイドモニター
- ・ クリアランスソナー
- ・ ETC システム

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AI-SHIFT	アーティフィシャルインテリジェントシフト
DISP	ディスプレイ
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックツールコレクション
FR	フロントエンジンリヤドライブ
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	ブリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ	アクセサリーソケット	212
	足元照明.....	194
	アンチロックブレーキシステム.....	175
い	イグニッションスイッチ	127
	イベントデータレコーダー	18
	イルミネーテッドエントリー システム	194
	インストルメントパネル照度 調整ダイヤル.....	141
	インテリアライト スイッチ	196
	インナーミラー	67
う	ウインカー W 数.....	351
	スイッチ	137
	電球の交換	249
	ウインドウ ウォッシャー	156
	パワーウインドウ.....	71
	ウインドウロックスイッチ	72
	ウォーニングライト	280
	ウォッシャー 液の補給	270
	スイッチ	156
	タンク容量	350
	冬の前の準備・点検.....	190
	運転 寒冷時の運転	190
	正しい姿勢	94
	手順	118
	運転席シートベルト 非着用警告灯.....	282

え

エアコン※	
エアコン・デフォッガー※	
エアバッグ	
SRS エアバッグ	95
一般的な警告	99
お子さまのための注意	100
改造・分解	102
警告灯	281
サイドエアバッグに	
関する警告	101
サイドエアバッグの作動条件	97
作動条件	96
正しい姿勢	94
配置	95
エレクトリックパワー	
ステアリング	175
エンジン	
イグニッションスイッチ	127
エンジン回転計	140
エンジンがかからない	320
エンジン警告灯	281
エンジンスイッチ	127
エンジンルームカバー	247
オーバーヒート	331
かけ方	127
ボンネット	241
エンジンイモビライザーシステム	88
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	190
容量	346

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

お	応急用タイヤ	
	空気圧	350
	スペアタイヤ	297
	オーディオ※	
	オートアラーム	89
	オートマチックトランスミッション	
	Sモード	134
	オートマチックトランス	
	ミッション	131
	シフトレバーが	
	シフトできない	322
	オートレベリングシステム	153
	オーバーヒート（エンジン）	331
	オープナー	
	給油口	84
	トランク	43
	ボンネット	241
	お子さまの安全のために	
	ウインドウロックスイッチ	72
	エアバッグに関する警告	99
	お子さまのシートベルト着用	62
	シートヒーターに	
	関する警告	216
	シートベルトガイド	60
	シートベルトに関する警告	63
	チャイルドシート	111
	チャイルドシートの固定	111
	電子キーの電池に関する	
	警告	269
	トランクに関する警告	45
	バッテリーに関する警告	330
	パワーウインドウに	
	関する警告	74
	オドメーター	140

か	外気温表示	149
	買い物フック	219
	カスタマイズ機能	353
	カップホルダー	200
き	キー	
	エンジンスイッチ	127
	キー	22
	キーナンバー	22
	キーレスエントリー	37
	キーを無くした	323
	電子キー	22
	電子キーが正常に働かない	324
	メカニカルキー	22
	ワイヤレスドアロック	37
	給油口	84
	緊急時の対処	
	エンジンがかからない	320
	オーバーヒートした	331
	キーを無くした	323
	警告灯がついた	280
	けん引	276
	故障したときは	272
	シフトレバーが	
	シフトできない	322
	車両を緊急停止する	344
	スタックした	333
	電子キーの電池が切れた	324
	発炎筒	274
	バッテリーがあがった	328
	パンクした	297
	メッセージが表示された	286

＜	空気圧 (タイヤ)	350
	区間距離計	140
	曇り取りスイッチ※	
	クルーズコントロール	
	クルーズコントロール	160
	レーダークルーズ	
	コントロール	164
	グローブボックス	198
	グローブボックスライト	198

け	計器	
	メーター	140
	メーター照度調整ダイヤル	141
	警告灯	
	SRS エアバッグ	281
	アンチロックブレーキ	
	システム	281
	エンジン	281
	シートベルト非着用	282
	充電	280
	燃料残量	282
	パワーステアリング	281
	半ドア	282
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	281
	プリテンショナー	281
	ブレーキ	280
	ブレーキアシスト	281
	マスターウォーニング	282

警告表示	
ウォッシュャー液量	289
エンジンオイル圧力	286
エンジンオイル量	289
クリアランスソナー	287, 289
ステアリングロック	287
スマートエントリー&	
スタートシステム	294
電動開閉式	
メタルトップ	287, 289
ドア	289
トランク	289
パーキングブレーキ	289
プリクラッシュセーフティ	
システム	287, 289
ボンネット	289
レーダークルーズ	
コントロール	287, 289
警告ブザー	
シートベルト非着用	282
半ドア	282
ブレーキ	280
化粧用ミラー	204
けん引	276

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

こ

交換

タイヤ	297
電球	249
電子キーの電池	268
ヒューズ	257
工具	297
後退灯	
W 数	351
電球の交換	249
子供専用シート	103
コンソールボックス	199
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	152

さ

サイドエアバッグ	95
サイドガラス	71
三角表示板収納スペース	222
サンバイザー	203

し

シート

運転席ポジションメモリー	51
シートヒーター	213, 215
シートポジションメモリー	55
正しい姿勢	94
チャイルドシートの固定	111
調整	47
調整に関する警告	50
手入れ	230
ヘッドレスト	57
ベンチレーター	215
シートヒーター	213, 215

シートベルト

お子さまの着用	62
緊急時シートベルト固定機構	62
シートベルトガイド	60
シートベルト警告灯	282
シートベルト	
ブリテンショナー	61
清掃・手入れ	230
正しい着用	59
チャイルドシートの固定	111
調整	59
妊娠中のかたの着用	62
シートポジションメモリー	55
シガレットライター	211
室内灯	
スイッチ	196
シフト照明	194
シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	131
シフトレバーが	
シフトできない	322
シフトロックシステム	322
ジャッキ	
ガレージジャッキ	244
車載ジャッキ	297
ジャッキハンドル	297
車幅灯	
W 数	351
電球の交換	249
ライトスイッチ	152
車両型式	352
車両仕様	346
収納装備	197
助手席シートベルト	
非着用警告灯	282

す	水温計	140
	スイッチ	
	ECT スイッチ	132
	イグニッションスイッチ	127
	ウインドウロックスイッチ	72
	エンジンスイッチ	127
	サテライトスイッチ	206
	シフトロック解除ボタン	322
	車間切り替えスイッチ	166
	全ウインドウ一括開閉	
	スイッチ	71
	TRC OFF スイッチ	176
	DISP スイッチ	149
	ドアロックスイッチ	39
	ハザードスイッチ	273
	パワーウインドウスイッチ	71
	非常点滅灯スイッチ	273
	フォグライトスイッチ	154
	ライトスイッチ	152
	ワイパー&ウォッシャー	
	スイッチ	156
	スタック	
	スタックした	333
	ステアリングホイール	
	調整	65
	ハンドルポジションメモリー	51
	スピードメーター	140
	スペアタイヤ	
	空気圧	350
	収納場所	297
	スベック	346
	スマートエントリー&スタートシステム	
	エンジンの始動	127
	ドアの施錠・解錠	26
	トランクを開ける	26

せ	清掃	
	外装	226
	シートベルト	230
	内装	230
	積算距離計	140
	洗車	226
	前照灯	
	W 数	351
	スイッチ	152
	ディスチャージヘッドライトに	
	関する警告	256
	電球の交換	249
そ	速度計	140
た	タイヤ	
	空気圧	350
	空気圧警報システム	235
	空気圧バルブ/送信機	234
	交換	297
	スペアタイヤ	297
	チェーン	190
	点検	233
	パンクした	297
	パンク修理キット	306
	冬用タイヤ	190
	ランフラットタイヤ	234, 318
	ローテーション	233
	タコメーター	140

ち チェーン（タイヤチェーン）..... 190

チェンジレバー

オートマチックトランス

ミッション..... 131

シフトレバーが

シフトできない..... 322

チャイルドシート

ISOFIX バーでの固定..... 112

シートベルトでの固定..... 112

種類..... 103

駐車ブレーキ..... 138

つ ツール..... 297**て** ディスプレイ

警告メッセージ..... 286

トリップインフォメーション... 149

レーダークルーズ

コントロール..... 164

手入れ

外装..... 226

シートベルト..... 230

内装..... 230

テールライト

スイッチ..... 152

電球

W 数..... 351

交換..... 249

電子キー

正常に働かない..... 324

電池交換..... 268

電動開閉式メタルトップ..... 75

電話スイッチ※

と ドア

サイドガラス..... 71

ドアミラー..... 68

ドアロック..... 26, 37, 39

ドアカーテシーライト..... 194

ドアミラー

調整..... 68

ミラーポジション

メモリー..... 51

ドアミラー照明

W 数..... 351

ドアミラー照明..... 194

盗難警報アラーム..... 89

盗難防止システム

エンジンイモビライザー

システム..... 88

オートアラーム..... 89

トークスイッチ※

時計..... 205

ドライビングポジションメモリー... 51

トラクションコントロール..... 175

トランク

オープナー..... 43

トランクリイト..... 44

トランクリイト

W 数..... 351

トリップメーター..... 140

な ナビゲーションシステム※**に** 荷物

積むときの注意..... 188

荷物固定用フック..... 219

ね 燃料

給油..... 84

種類..... 346

燃料計..... 140

容量..... 346

は	パーキングブレーキ	138
	パーソナルライト	
	スイッチ	196
	灰皿	210
	ハザードライトスイッチ	273
	発炎筒	274
	バックアップライト	
	W 数	351
	電球の交換	249
	バッテリー	
	バッテリーがあがった	328
	冬の前の準備点検	190
	バニティミラー	204
	バニティライト	
	W 数	351
	バニティライト	204
	バルブ	
	W 数	351
	交換	249
	パワーウインドウ	71
	パンク	
	パンクした	297
	ハンドル	
	調整	65
	ハンドルポジションメモリー	51

ひ	ビークルスタビリティ	
	コントロール	175
	ビークルダイナミクス	
	インテグレイテッド	
	マネージメント	175

ヒーター	
シートヒーター	213, 215
非常点滅灯スイッチ	273
尾灯	
スイッチ	152
ヒューズ	257
表示灯	145
ヒルスタートアシスト	
コントロール	175

ふ	フォグライト	
	W 数	351
	スイッチ	154
	電球の交換	249
	フック	
	買い物フック	219
	けん引フック	276
	荷物固定用フック	219
	冬用タイヤ	190
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	182
	ブレーキ	
	パーキングブレーキ	138
	ブレーキ付近からキーキー音	
	が聞こえる	122
	ブレーキアシスト	175
	フロアマット	217
	フロントシート	
	シートポジションメモリー	55
	調整	47
	ドライビングポジション	
	メモリー	51
	フロントターンシグナルライト	
	W 数	351

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

	フロントフォグライト	
	W 数	351
	スイッチ	154
へ	ヘッドライト	
	W 数	351
	スイッチ	152
	ディスチャージヘッドライトに 関する警告	256
	電球の交換	249
	ヘッドレスト	
	調整	57
	ベンチレーター	215
ほ	ホーン	139
	ホイール	233
	方向指示灯	
	W 数	351
	スイッチ	137
	電球の交換	249
	ボンネット	241
ま	マルチインフォメーション ディスプレイ	148
み	ミラー	
	インナーミラー	67
	ドアミラー	68
	パニティミラー	204
め	メーター	
	メーター	140
	メーター照度調整ダイヤル	141
	メモリーコール機能	52
	メンテナンス	
	メンテナンスデータ	346

ら	ライト	
	W 数	351
	室内灯	194
	電球の交換	249
	ドアカーテシーライト	194
	パーソナルライト	196
	ハザードライト	273
	パニティライト	204
	非常点滅灯	273
	フォグライト	154
	ヘッドライト	152
	方向指示灯	137
	ランフラットタイヤ	234, 318
り	リヤウインドウデフォッガースイッチ※ リヤターンシグナルライト	
	W 数	351
	電球の交換	249
	リヤフォグライト	
	W 数	351
	スイッチ	154
	電球の交換	249
れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検	190
	容量	348
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート	331
	レーダークルーズコントロール	164
わ	ワイパー	
	スイッチ	156
	ワイパーデアイザー	159
	ワイヤレスドアロック	
	リモコン	37

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。



タイヤがパンクした

P. 297
P. 306
P. 318

パンクしたときは



エンジンがかからない

P. 320
P. 88
P. 328

エンジンがかからないときは

エンジンイモビライザーシステム

バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 322

シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 331

オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーを無くした

P. 323

キーを無くしたときは



バッテリーがあがった

P. 328

バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 26
P. 37
P. 39

ドア



ホーンが鳴り出した

P. 89

オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 333

スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 280 警告灯がついたときは



警告灯一覧



ブレーキ警告灯

P. 280



運転席シートベルト非着用
警告灯

P. 282



ABS & ブレーキアシスト
警告灯

P. 281



助手席シートベルト非着用
警告灯

P. 282



燃料残量警告灯

P. 282



マスターウォーニング

P. 282



SRSエアバッグ/プリテン
ショナー警告灯

P. 281



パワーステアリング警
告灯

P. 281



半ドア警告灯

P. 282



PCS 警告灯

P. 281



エンジン警告灯

P. 281



タイヤ空気圧警告灯

P. 282



充電警告灯

P. 280



スリップ表示灯

P. 281



メッセージが表示
された

P. 286 警告メッセージが表示されたときは



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイのメッセージを確認ください。

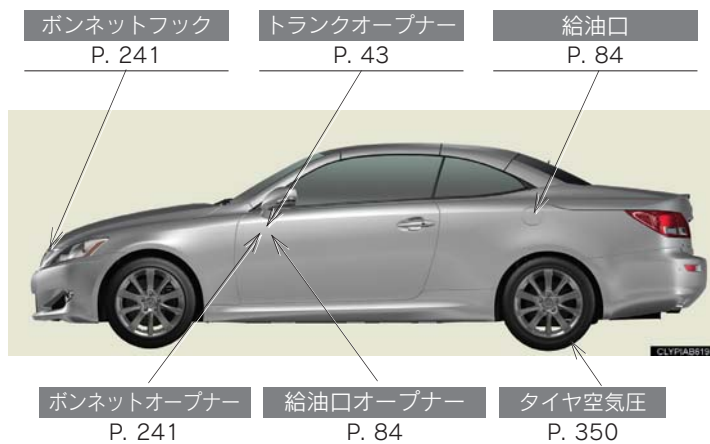
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 280)
- メッセージが表示されている (→P. 286)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 34
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 135
	シフトダウンしたとき	P. 135
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 164
	ブレーキを踏んだとき	P. 122
	メタルトップが全開または全開でないとき	P. 283

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	65 L	
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン	P. 85, 346
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ 前輪：240 (2.4) kPa (kg/cm ²) 後輪：260 (2.6) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm ²)	
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時：5.9 L オイルとフィルター交換時：6.3 L	
エンジンオイルの種類	P. 346	

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

